2018年1月からのライオン誌とウェブマガジンに関するお知らせ

読者会員の皆様へ

2014年10月の国際理事会において2018年1月からライオン誌公式版をデジタル化する決定がなされて以降、ライオン誌日本語版委員会では日本語版のデジタル化について協議を重ねてまいりました。国際本部からは、公式各国語版に対する補助金を会員一人につき年額6ドルから4ドルに減額し、ライオン誌（印刷物）の年4回以上発行と、デジタル版の発行を義務付けることが示されました。これを受けて委員会では、2016年12月～17年1月にかけて全クラブを対象にアンケートを実施。3,095クラブ中1,810クラブ（回答率58.5%）の回答を得、その結果、「2018年以降、印刷版は現行程度の質と量を維持し、国際協会補助金と購読料の範囲内で発行出来る分でいい」とする回答が73.9%を占めました。委員会はこの結果に基づいて検討を行い、ライオン誌（印刷物）の発行回数を年6回、隔月とし、デジタル版としてライオン誌ウェブマガジンを年12回、毎月発行する方針を決定しました。

ライオン誌（印刷物）とライオン誌ウェブマガジンは下記の通りそれぞれの媒体の特長を生かした内容とし、読者会員はもとより、会員以外の方々への情報発信にも努めてまいります。

2016-17年度ライオン誌日本語版委員会

ライオン誌（印刷物）
年6回、隔月発行。従来通りの誌面の会員誌

●隔月で全会員へ

1-2月号、3-4月号、5-6月号、7-8月号、9-10月号、11-12月号の年6回発行で、従来通り会員個人発送、クラブ一括発送のいずれかで全会員の手元へ届けます。

●誌面構成はそのままに

取材や投稿によるクラブの活動リポート、ライオンズの活動に関わるテーマを掘り下げる特集、会員のエッセーや提言など、基本的にこれまで通りの誌面を継続します。

●ウェブマガジンとの連携

取材記事の一部はウェブマガジンと連携し、相互に異なる視点や切り口の記事を提供します。

●各公式版共通のデジタル版

印刷物の誌面をデジタル化し、国際協会公式サイト上で各国語版共通の形式により閲覧出来るようになります。

ライオン誌ウェブマガジン
年12回、毎月更新。内外に広く情報発信

●写真や動画でアクティビティを活写

全国のライオンズクラブのアクティビティや、奉仕に励む生き生きとした会員の姿を、写真と動画を用いた記事で伝えていきます。

●奉仕する姿を会員以外にも発信

地域で、世界で、支援を必要とする人々のために奉仕する会員の姿を一般の方々に広く見て頂くことで、ライオンズクラブの貢献と魅力を発信。フェイスブック、ツイッターなどのSNSとの連携も強化します。

●いつでも、どこでも、手軽に

パソコンの他、タブレット端末、スマートフォンなどの携帯端末で気軽に見られるページを構築します。

●会員向け情報も充実

会員専用ページには、ライオン誌バックナンバーや各種資料、統計など会員にとって有用な情報を収めます。

LION MAGAZINE IN JAPAN
August 2017, Vol.60 No.2

We Serve CONTENTS

■2017年8月号
表紙
ナレシュ・アガワル
国際会長夫妻

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Naresh Aggawal
Lions Clubs International
President

個々のライオンへの奉仕を高めるために

ナマステ！　ライオンズの新世紀へようこそ。私はこの1年間のためにシンプルな目標を立てました。それはライオンの皆さんが受ける奉仕と、行う奉仕の両方を、新たなレベルへと引き上げることです。まずは国際協会から皆さんへ、新たなレベルの奉仕をお届けします。ライオンとしてのキャリアの段階ごとに、私がお役に立てる方法を考えてみます。

最初の段階は、新会員になることです。私は43年前にライオンズに入会した時、まるで自分が住み慣れた町を離れ、たった一人で世界の舞台に立ったように感じたものです。そこで今年度、ライオンズの新しいモバイルアプリが発表されますので、これを全会員にダウンロードして頂きたいと思います。そうすれば、皆が一つのグローバルなプラットフォームでつながっていると実感出来るでしょう。

次の段階は、奉仕を始めることです。私が地元インド・パンジャブ州パタラのライオンズクラブに入会すると、地域の人々が私に敬意を払うようになり、誇りを感じさせてくれました。以後、奉仕した人数が増える度に、それは高まりました。今年度、協会は新たにグローバル奉仕チーム（GST）を設けました。各地区のGSTリーダーは、費用と時間を最大限に生かす事業を見極めることになります。またライオンズのブランド化とPR活動によって通常の事業をレガシー・プロジェクトに変える方法も伝授していきます。

三つ目の段階は、リーダーになる意欲を持つことです。今年度から始まる新しい表彰システムはリーダーの努力を促し、適切な方向へと導くでしょう。私たちは会員維持を表彰します。つまり今、クラブに在籍している皆さんを重視する計画です。新たなアワードは、クラブ・メンバーの過半数が奉仕に参加することや、最も多くのレガシー・プロジェクトを生み出すことに対しても贈られます。

また私は、メンバー一人ひとりが協会とつながっていてほしいと考えています。新しい「ウェルカム・ホーム」プログラム*は、クラブ例会への出席が難しい人のための国際的なオンラインクラブです。例会出席と会費の支払いは、全てオンラインで行われます。

最後の段階は、現在です。これから12カ月間、全てのライオンに同じ目標を持って頂きたいのです。私の夢は、一人ひとりが毎月10人に奉仕することです。これが実現すれば、私たちは今年度1億7千万人に奉仕することになり、現在のレベルである1億人から大幅に増えるだけでなく、「2020年までに年間の奉仕受益者を2億人にする」という目標に大きく近づくことが出来ます。私は今後、世界各地を回り、あらゆる機会にこの活動について取り上げていきます。

皆さんのご活躍をお祈り致します。世界の訪問先でお会いしましょう。

2017-18年度国際会長
ナレシュ・アガワル

*「ウェルカム・ホーム」プログラムは、昨年度一部の国において期間限定で実施されたパイロット・プログラムで、今後の実施については国際理事会で検討される予定です。

※「国際会長メッセージ」の原文は国際協会公式サイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/who-we-are/our-leaders/presidents-message.php

特集

100周年記念シカゴ国際大会

6月30日〜7月4日、ライオンズクラブ発祥の地シカゴにあるマコーミック・センターを主会場に開催された第100回国際大会の模様をリポートする。

取材／河村智子、井原一樹

7月1日のインターナショナル・パレードは、ステート通りのシカゴ劇場付近を出発点に約800㍍の直線ルートで行われた。日本は国別で2番目、ボブ・コーリュー国際会長を擁するアメリカ・テネシー州に続いて登場し、約1,500人の大編成で行進した

各国の民族衣装で合唱しながら進む北欧諸国、カウボーイ・スタイルで決めたテキサス州などは定番の衣装で、ナイジェリアは100周年ロゴをプリントした衣装で行進。カナダはライオンズが支援するスチールバンドとカントリーバンドを載せた2台のフロートを従えて進んだ

Leones Cien Años
Sirviendo
a la Humanidad PURA VIDA!

PIRATES
1917

BRASIL
LIONS CLUBE ARACAJU NOVA GERAÇÃO

WELCOME LIONS

POPLAR HILL HILLBILLYS

初日総会で年次報告を行ったボブ・コーリュー国際会長。創設100周年と共に、レオクラブ発足60年、女性会員入会から30年の節目を祝った

初日総会の基調講演者は地球温暖化に関するドキュメンタリー『不都合な真実』で世界に衝撃を与え、2007年ノーベル平和賞を受賞したアル・ゴア元アメリカ副大統領。海水温上昇による世界的な気象災害の多発や、中東地域で進む砂漠化に起因する紛争、感染症の増加などを例に挙げ、地球温暖化が世界経済の最大の脅威であり、今がターニングポイントだと指摘。その上で、我々は変わることが出来ると力説した

所信表明を終えて歓声に応えるヘインズ・H・タウンゼント国際第3副会長（アメリカ）

LCIFに10万ドル以上献金した8人の功績がたたえられ、日本からライオン岡本昭（大阪天王寺ライオンズクラブ）が表彰を受けた

ライオンズに自らの体験を語ったオーストラリアの小児がん患者エイバちゃんに、山田LCIF理事長が盾を手渡した

2日目総会の基調講演者はパン・ギムン前国連事務総長。現在は難民や飢餓の問題などニーズの多い時代で、世界はライオンズを必要としていると述べ、人権尊重や平和、気候変動など世界的な課題の解決に向けて、ライオンズに協力を求めた

100周年奉仕チャレンジによる奉仕の受益者数を発表するJ・フランク・ムーア100周年記念実行委員長。チャレンジは来年6月まで実施される

戦争や貧困によって傷ついた子どもたちで結成されたアフリカン・チルドレンズ・クワイアが澄んだ歌声とダンスを披露

334-A地区のLCIFコーディネーターを務める垣見正則地区ガバナーにダイアモンド理事長メダルが授与された

ナレシュ・アガワル新国際会長ファミリー

糖尿病患者の一人として自らの体験を語る歌手のパティ・ラベル

ナレシュ・アガワル新国際会長の就任スピーチ

シカゴ国際大会：最終日総会（閉会式）

ナレシュ・アガワル新国際会長就任式

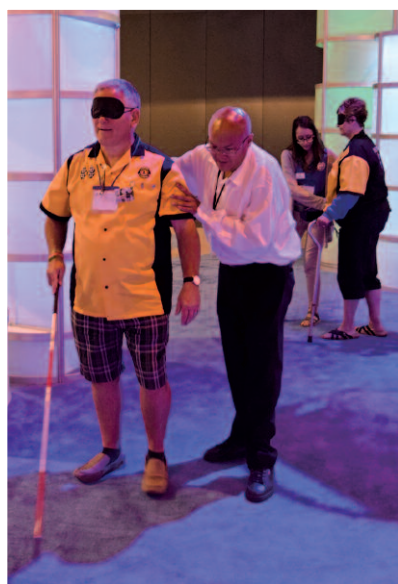
2017-18年度地区ガバナー就任式

2日目と最終日の総会で登録者のラッフルくじが行われ、最終日総会の2等ラスベガス国際大会参加（往復航空券と宿泊代、登録料）に髙安五郎（茨城県・鹿島ライオンズ）、1等シボレー乗用車に後藤敏宏（千葉県・船橋翼ライオンズ）が当選

シカゴ国際大会点描

生誕の地に3万人が集う

「ウエルカム・ホーム（おかえりなさい）、ライオンズ」。初日総会（開会式）の冒頭、ボブ・コーリュー国際会長はこんな言葉で集まった参加者を歓迎した。1917年6月7日、メルビン・ジョーンズの呼び掛けに応えて全米27クラブの代表がシカゴに集まり、ライオンズクラブが産声を上げた。それから100年。記念すべき年を祝おうと、世界中から約3万人のライオンズが集結した。

シカゴは別名建築の街とも言われ、ループと呼ばれる高架鉄道が走る中心街では、初期から近代まで多様な高層建築が見られる。メルビン・ジョーンズが国際的奉仕組織の礎を築いた当時のビルが残るシカゴの中心街で、大会の開幕を飾るインターナショナル・パレードは行われた。直前の情報では、世界各地で勃発するテロ事件の影響でシカゴ警察は厳しい警戒態勢を取り、不審物が見つかれば即刻停止もあり得るとのことだった。しかし始まってみればいつもの和やかな雰囲気で、国や肌の色、宗教の違いを超えて声援を送り合い、警備の警官たちも笑顔で隊列に手を振るなど、平和を絵に描いたようなパレードとなった。このパレードには2万人を超えるライオンズが参加。

各複合地区、地区は100周年記念フラッグを掲げて進み、おなじみの各国の民族衣装に加えて、100周年にちなんだユニフォームやフロートも登場して沿道の歓声を浴びた。

大会を1週間後に控えた6月24日時点の登録者数は2万8684人、国別では地元アメリカの7200人余に次ぎ、新国際会長を送り出すインドが約2800人、中国約2500人、日本約2100人、ネパール約1300人と、アジア各国の存在感が際立った。初日総会では登録者数は3万人を超え、北米開催の大会としては過去最高との発表があった。

100回目の変化

今回で100回目を迎えた国際大会には、いくつかの変化があった。

一つは、代議員投票の方法の変更だ。前回大会までは最終日朝に行っていた投票が、大会期間中3日間にわたって代議員の資格審査と同時に行えるようになった。これまでは資格審査を終えながら何かの事情で投票をしない代議員も少なくなかったが、資格審査と投票を同時に行う方式にしたことで確実に投票が行われるようになった。投票場には初日総会終了直後こそ長い行列が出来て1時間半待ちの状況が生じたが、それ以降はさほどの混雑はなかった。投

初日総会直後には代議員資格審査と投票の順番を待つ人たちで長蛇の列が出来た。それぞれのブースには資格証明委員として4人、選挙委員として10人の日本人メンバーが交代で待機しサポートした

日本語セミナーではドイツのライオンズ財団によるドイツ平和村支援の活動紹介や、日本ライオンズの支援を受けてケニアで建設中の幼稚園に関する報告の他、国際理事による報告が行われた

日本ライオンズの貢献に対して感謝の言葉を述べるコーリュー国際会長

票を終えた日本の参加者数人に聞いたところ、「短い時間で簡単に投票が出来た」「自分の都合に合わせて投票出来るので助かる」など、利便性が高まったと好評だった。

大会全体を通して、奉仕にフォーカスした展示や催しが増えたのも変化の一つ。展示ホールの100周年記念展示コーナーには、白杖を用いた視覚障害者の歩行体験や、緊急事態に対応可能な災害支援ユニットの見学など、ライオンズの主な奉仕活動にまつわる展示があった。また、展示ホール内の三つの小ステージでは、奉仕事業を発表しそのノウハウや成果を共有するセッションがいくつも組まれていた。更に大会奉仕事業として、ミシガン湖畔での清掃活動や、ホームレスのための衛生キットを作る活動など大会登録者が参加出来る奉仕事業が行われ、さまざまな国の会員が協力して作業に取り組んでいた。

もう一つの変化が、展示ホールの中央に据えられたテクノロジー・ゾーン。国際協会は100周年を記念する今大会で新たな会員向けモバイルアプリ「MyLion」を発表した。このアプリを使えば、スマートフォンを介して世界中のライオンズと奉仕活動の情報を共有し、交流する

シカゴによるクロージング・ショー

ビーチ・ボーイズによるオープニング・ショー

大会奉仕事業の一つとして行われた途上国の学校給食用に穀物を袋詰めする活動

ることが出来る。まずはアメリカやインドなど6カ国で開始し、その他の国でも順次提供される予定だという。ＭｙＬｉｏｎのブースでは専門スタッフがダウンロードをサポートし、繰り返し説明会が開かれていた。テクノロジー・ゾーンでは他にもソーシャルメディア活用に関するセッションや、ＩＴ専門家のサポートが受けられるブースもあった。国際協会が１００周年を機に打ち出した戦略計画ＬＣＩフォーワードでは、ライオンズの知名度向上や新世代の会員獲得を進めるために情報テクノロジーの活用を重視しており、その戦略が形となって現れたのがテクノロジー・ゾーンだと言えるだろう。

次なる１００年の第一歩

今大会は１００周年を記念する特別な大会だけあって、総会には世界的に著名なスピーカーが招かれ、エンターテインメントにも力が入っていた。初日総会ではアル・ゴア元アメリカ副大統領、2日目総会ではパン・ギムン元国連事務総長が、世界が直面している課題について語り、ライオンズの貢献に期待を示した。2回のインターナショナル・ショーにはビーチボーイズとシカゴが登場し、会場を大いに沸かせた。

初日総会ではコーリュー国際会長

100周年記念展示の一つとして、アメリカのライオンズが非常時に提供する災害支援ユニットが紹介された

OSEAL地域の100周年記念事業発表では、村木秀之330-A地区ガバナーが薬物乱用防止パレードについて、内田吉則330-B地区100周年記念コーディネーターが国際本部ビルの日本庭園整備について発表した

ワールド・カフェ形式のテーマ・ディスカッション

ライオンズ・デン・ステージで行われたプレゼンテーションに多くの聴衆が聞き入った

大会日程に合わせて国際本部ツアーが組まれた。本部ビル前に新設されたメルビン・ジョーンズ像と記念撮影するメンバーたち

2016-17年度国際平和ポスター・コンテスト大賞受賞者、タイのラッカナー・ミーパラさんによるサイン会

が年次報告を行い、年度中に過去最高の会員数１４４万９９８７人を記録し、年度末会員数でも１４２万５７９５人と過去最多となったと発表。２日目総会では山田實紘ＬＣＩＦ理事長が、設立以来の交付金総額が10億ドルを突破したこと、難民支援にこれまでに１００万ドル以上の資金を投じたこと、また医療分野における新事業としてオーストラリアの小児がん患者を支援するゲノム解析プロジェクトを支援したことなどを報告した。

最終日総会（閉会式）の後半、選挙結果が発表されてナレシュ・アガワル国際会長就任が告げられると、会場前方に陣取ったインドのライオンズから大歓声が湧いた。アメリカに次ぐ25万人の会員数を擁するインドから、３人目の国際会長が誕生した瞬間だ。アガワル新国際会長は就任スピーチで、ライオンズにとって最も重要な言葉は「ウィ（We）」と「サーブ（Serve）」だと述べ、自らのテーマ「ウィ・サーブ」を発表。ＬＣＩフォーワードが掲げた糖尿病を含む五つの奉仕分野に注力し、２０２１年までに年間２億人に奉仕する目標を達成しようと呼び掛け、１０１年目のスタートを宣言した。

WE SERVE

2017-18年度国際会長　ナレシュ・アガワル

インドのあいさつ

「ナマステ」

「あなたの中にある神聖なるものに敬礼します」という意味です。
多くの人は、生涯をかけて、神や心の平安を追い求めます。
私にとって、神の化身である地上のあらゆるものに奉仕することこそ、
神を崇拝することです。周囲の人たちが平安と幸福を味わうことが出来れば、
それこそが私の平安と幸福の源です。

この信条が、私のビジネスと私生活を形作ってきました。

私は、インド北西部のパンジャーブ州にあるバタラという町で育ちました。天下を取ることを夢見る、典型的な少年でした。しかし、それを達成する手段こそが私にとっては重要でした。私は、思いやりで人を動かしたかったのです。

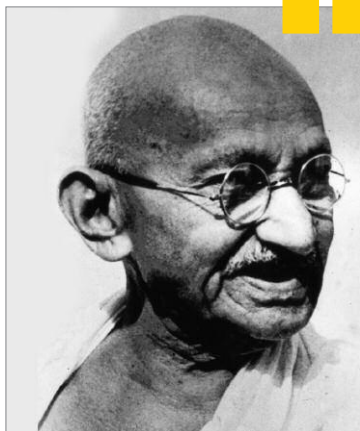
私はバタラだけでなく、世界全体を変えることを夢見ました。1974年、初めてライオンズの前に立った時、私は、今加わったこの組織こそ私の長年の夢をかなえさせてくれる場所だと確信しました。

我々ライオンズは、世界の人々と一つです。サンスクリット語では、「ヴァスダイヴァ・クトゥンバカム」、世界は私の家族（人類みな兄弟）と言います。

”人々に、私たちの理想を伝えよう――世界は一つの家族なのであって、明日におびえながら眠りにつくような子どもがいてはならないのだと“

世界を一つの家族、一つの家にするカギは、私たちが握っています。他人の必要を満たすために身を投じる、140万人のライオンズの手にかかっているのです。もしも、ライオンズのメンバー一人につき毎月10人に奉仕をすれば、我々が目指す、現在の3倍の奉仕、年間2億人の奉仕目標は簡単に達成することが出来るでしょう。

他者への奉仕こそが、私たちの本質です。私たちがグローバルな組織として存在する、理由そのものです。それを誰にでも分かりやすい言葉で表すのが、私たちのモットー「We Serve（われわれは奉仕する）」です。国際会長就任に向けて準備する中で、私は何度もこの言葉に立ち返ってきました。私のテーマを表す言葉として「We Serve」を誇りを持って掲げます。我々のモットーは不朽です。その意味はライオンズクラブ創設の1917年から今日まで失われておらず、私たちを奉仕の次世紀へと導いてくれます。

2015年、ホノルルにおける国際大会で、私は申し上げました。「時代にかなって生まれた発想ほど力強いものはない」と。私たちが待ちに待った時―新しい世紀―が今、やってきたのです。

他者への奉仕に
自らを没して初めて
私は自らを見いだした

マハトマ・ガンジー

WE SERVE.

THE POWER OF ACTION 行動の力

大河のように

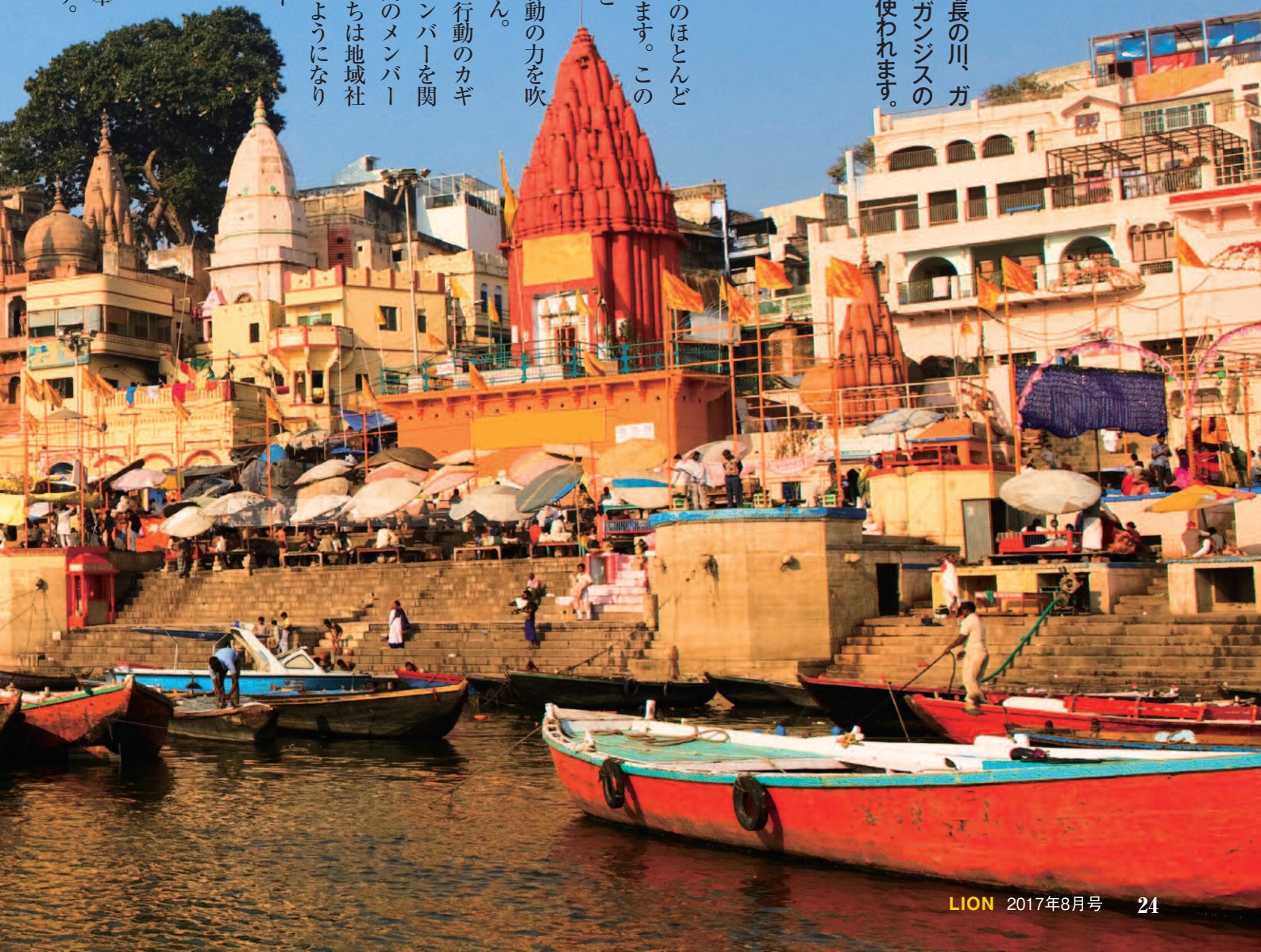
多くの都市は川沿いに広がり繁栄します。インドでは、国内最長の川、ガンジス川が神格化されています。現地では「ガンガー・マー」（ガンジスの母）と呼ばれ、ちょうど「母なる大地」という言葉と同じように使われます。

なぜガンジス川が、母、あるいは崇拝の対象とされているのでしょうか？　それは、ガンジスが命を生むからです。川が植物を養い、植物が人や動物を養います。川が、貿易や移動を可能にします。そして、自らと周りの環境を絶えず浄化し、よみがえらせます。インドでは、何億という人々がガンジスの恵みにより生かされています。

ライオンズクラブもこれに似ています。「私たちの川」は、100年の間に4万7千以上の地域社会（クラブ）に支流を増やしてきました。今、私たちは新たなアイデアや事業案によってクラブを絶えずよみがえらせ、世界中のあらゆる地域社会に、この川を流れさせなければなりません。

行動の力

ライオンズは、世界中のほとんどの地域社会に存在しています。この存在を、力ある奉仕へと変換していくためには、メンバー一人ひとりに行動の力を吹き込まなければいけません。

社会でも、職場でも、行動のカギとなるのは、あらゆるメンバーを関与させることです。仲間のメンバーに尽くして初めて、私たちは地域社会に尽くすことが出来るようになります。ライオンズのリーダーには二つの手があります。一つは、地域に奉仕するため。もう片方は、仲間である ライオンズの会員に奉仕するためにあるのです。

なるべく多くの差し迫ったニーズに対応出来るよう、資金、人、時間を最大限に活用する事業を選びましょう。

会員が増えれば奉仕も増える

ライオンズクラブは、人を集めます。人が集まれば、多くの実りがあります。友情が生まれ、リーダーが選ばれ、計画が立てられ、地域社会がより良い場所になります。しかし、行き着くところはただ一つ、「奉仕」です。私たちがひたむきに目指すのは、昔も今も変わらず、困っている人に奉仕することです。

1917年から1987年までに、ライオンズの会員は140万人にまで増えました。1日に54人ずつ増えた計算です。これは驚異的な成長率であり、ライオニズムの力の証でもあります。それからの約30年間も、ペースは落ちたものの、私たちは成長を続け、新しい国々に広がってきました。しかし、もっと出来るはずです。

新たなメンバー：女性と若手

世界人口の半数は女性。また半数以上は30歳以下です。しかし、ライオンズの会員はそのほとんどが30歳以上の男性です。この差を縮めることこそ、国際協会発展の鍵であり、より多くの恵まれない人々に奉仕の手を差し伸べる契機となります。

女性は組織内で最も急成長を遂げているグループではありますが、女性にライオンズの門戸が開かれて30年以上が経過しているにもかかわらず、全体で見ると女性会員数は27％にとどまっているのが現状です。また、若手会員もあまりに少ないですし、アフリカ、南米、ヨーロッパなど歴史豊かな地の会員もまだまだ足りません。こうした課題の全てに解決策を見いださなければなりません。

引き続き、女性をリーダーに抜擢していく必要がありますし、女性たちの期待や思いに応える事業を行っていかなくてはなりません。若い人たちがどんな理由でボランティアに携わるのかをよく理解した上で彼らに働き掛け、世界をより良くしたいという夢を、ライオンズでなら実現出来ると伝えなくてはなりません。

新会員を1人増やせば もう70人に奉仕出来る

2021年までに年間2億人に奉仕するという目標に到達するためには、新会員を増やし続けることが必要不可欠です。

会員が増える＝奉仕が増える

最初の100年間で、ライオンズは現在の140万人という規模に成長しました。

シカゴのたった一つのクラブを、200以上の国や地域、4万7千クラブへと広げるまで、熱心にその思いを伝え続けた多くの先達には敬服するばかりです。

140万のライオンズに出来ること

もし私たち全員が奉仕事業のために月々もう10ドル寄付すれば、全体で年間1億7千万ドルの財源増となります。もし私たち全員が週に1時間多く奉仕をしたら、年間の奉仕時間が更に7300万時間増えます。

必要なのは意識改革

人々の暮らしを楽にするため、テクノロジーや医療、経済など、さまざまな分野で、日々革命が起こっています。それなのに、7億9500万人（世界人口の11％）は飢餓にあえいでいます。

低所得国で飢えた人に1年間食糧を提供するために必要なのは、わずか160ドル。この金額（7億9500万人×160ドル）は、世界の恵まれた人10億人が1日35セントを出せば集まります。これこそが、「パワー・オブ・ウィ（we）」、私たちが持つ団結の力なのです。

人々が皆の幸せのために協力すれば、世界で最も困難な問題でさえも解決が可能です。

協会のモットー「ウィ・サーブ」が今年のフォーカス

「ウィ・サーブ」はパワフルな表現です。「We（われわれ）」という言葉は140万人の会員の総力を象徴するものであり、「Serve（奉仕する）」は、世界で最も切迫したニーズを満たすため、財源を1ドル残らず奉仕に変えていく、明白で断固たる私たちの行動を表しています。

団結の力

「パワー・オブ・ウィ」は、私の力があなたから、あなたの力が私から来ることを示す言葉です。

私一人で車を持ち上げることは出来ませんが、力を合わせれば出来ます。一人の人が農村に教育をもたらすことは出来ませんが、志を同じくする人が集まれば、出来ます。メンバーの輪が広がれば、世界の問題は小さくなります。

私たち全員が一つになれば、不可能は可能になります。

「ウィ・サーブ」は私たちの大切な特徴、「絆」を表現する

ライオンズは互いにつながっており、またそれぞれの地域社会とつながっています。それぞれ個別のつながりが鎖のように集まり、切れない絆を形成しています。140万の強固な連結が作り出す鎖は、大きな善の力となります。

団結の力

THE POWER OF WE

100年の成果

団結の力

THE POWER OF WE

私たちは奉仕を必要とする人たちのために
立ち上がります。

140万人
x 週2ドル
年間1億4,500万ドル

140万人
x 週1時間の奉仕
年間7,300万時間の奉仕

行動の力

THE POWER OF
ACTION

世界に変化を望むなら、
我々自身がその変化に
ならなければなりません。

世界人口の40%が
貧困層という現実
を、私たちなら
変えられる。

奉仕の力

THE POWER OF
SERVICE

メンバーの輪が広がれば、
世界の問題は小さくなります。

2017-18年度
ライオンズクラブ国際協会
国際会長　ナレシュ・アガワル
WE SERVE.

未来は今ここに

グローバル人道奉仕の第2の世紀に突入しようとする今、変容を続ける世界のニーズに合わせて私たち自身が進化しなければなりません。ライオンとして、なんともやりがいを感じる時です。

私たちが掲げる新たな戦略、「LCIフォーワード」は、ライオンズが未来に向けてビジョンを描き、実行し、現実のものとするため、そして増え続ける世界のニーズに対応するための、道しるべとして考案されたものです。この新たな戦略プランは、私たちの奉仕の枠組みをより良いものとし、世間一般のライオンズのイメージアップを図り、クラブや地区そして組織全体の運営体制を向上させ、更に今いるメンバーの会員としての体験をより充実させつつ新たなマーケットを開拓することを目指します。

ライオンズ･モバイルアプリのような新たな手法（プロダクト）により、会員たちは、奉仕のアイデア･写真･動画･情報の交換など、これまでにないような形で、どこにいても互いにつながることが出来るようになります。

我々は世界中に、世界の問題がいかに大きいものであるか、しかし全員が力を合わせればそれらがいかに解決しやすくなるかについて、知らせなければなりません。

グローバル人道奉仕の第2の世紀を迎えるこのようなおめでたい時に国際会長を務めさせて頂くことを、大変誇りに、また光栄に思います。

1917年6月7日、シカゴのラサール･ホテルでメルビン･ジョーンズが大胆な構想を発表しました。それは、滅私奉公の基本原則に基づく組織を作るというものでした。多くの人は半信半疑でした。そんなことは出来ないと考えたのです。しかし、今日、それは現実となっています。140万人が、他人に尽くした彼の足跡をたどっているのです。

人生で、夢をかなえることほど大きな喜びはありません。奇跡を起こすことも同様です。どうか、いちばん手の届かない夢を選び、それをかなえることに生涯を費やしてください。人生のあらゆる瞬間に生きがいを感じられるような夢を選んでください。皆さんの国際会長になれたことは、私にとってはまさに夢の実現でした。しかし、それは夢のほんの一部です。残りは、ライオンズのメンバー全員と共有する夢です。それは、世界中の子どもたちが、自分を大事にしてくれる幸せな家庭で育ち、立派な大人になるためのあらゆる機会を与えられることです。ガンジーのように、この夢に自らを投げ打とうではありませんか。それこそが、自らに出会える場所なのですから。

新しい奉仕フレームワークと、新たな奉仕分野としての「糖尿病」の追加、奉仕プログラムの見直し、新たなマーケティング技術の取り組み、意欲的なLCIフォーワード世界戦略、そして新たな100年を目前に控えた今、未来は私たちのものであり、未来は今ここにあります。

私は常々、この世を去る時には、この世に来た時よりも世界がより良い場所に、後の代にとってより住み良い場所になっていなくてはならないと考えてきました。この信念は、クラブ会長になった時も、地区ガバナーになった時も、国際理事、国際副会長になった時にも私の指針となりました。そして国際会長となった今、皆さんのお力添えを頂きながら、引き続きこれが私の指針となるでしょう。力を合わせて、奉仕の伝統を更に拡大していくのです。

今こそ、行動の時です。私たちなら人々の力になれます。いえ、なるのです。皆さんお一人おひとりが、いつまでも続く影響を与えることが出来ます。私と手に手を取り、次世紀に向け「年間2億人への奉仕」を目指しましょう。

共に、私たちは「団結の力」を発揮します。
行動を起こします。
世界を皆にとって住み良い場所にします。

全てのライオンズに、「ナマステ」。

ナレシュ・アガワル国際会長プロフィール

リーダーとなる運命

半世紀近く前、インドの小さな村でライオンになった時、ナレシュ・アガワルはライオンズクラブ国際協会の頂点に立つことを夢見た。彼は今、ライオンズをかつてない奉仕の高みへと導くことを夢見ている。

新国際会長は子どもたちを愛している。そしてデリーのライオンズが建てたライオンズ・ヴィジャ・マンディール学校の子どもたちも、ライオンズを愛している　（写真：アマンダ・レイ・ラトリフ）

ライオンズの新国際会長の人物像を十数人の近しい人々に尋ねたところ、常に同じ言葉が返ってきた。夫人、3人の子どもたち、仲間のライオンズ、仕事の同僚によれば、ナレシュ・アガワル会長は「情に厚く、エネルギッシュで、目的に向かって突き進む人物」である。

また歌うことが大好きで、頼まれなくても突然歌い出す。高校時代には歌唱力の高さで知られたが、それを職業にはしなかったし、コンサートに向けて練習しているということもない。ただ好きだから歌う。それは自分自身とこれまでの人生に満足していることの現れ、言わば癖だ。

何はともあれ、彼の基礎、根っことなるものは間違いなく実践により形成された。彼のこれまでの人生における起業家としての成功に根差すものだ。若い頃から働いて家族経営の鋳物工場を大きくし、やがて鉄道線路の切り替えをする分岐器のビジネスや、米の加工をする企業を立ち上げた。インドであろうと他のどこであろうと事業を開拓していくことは、細部に気を配り、現状を正確に把握し、目標達成への障害を取り除くといった努力無くして成し得るものではない。

こうした経験を積んできたアガワル会長やインドの他のライオンズ・リーダーには、身に染みて分かっていることがある。それは、インドのライオンズが子どもたちを支援し、学校で成績を上げさせたい、いや、それ以前に毎日学校へ通わせたいと思った時に、一番の鍵となること。子どもたちがちゃんと食事が取れていることがまずは何よりも大事だということだ。

「お腹が満たされていれば、頭もよく働くものです」

会長は優しくほほ笑みながら言う。ライオンズと、協働するパートナーのおかげで、今では2万5千人余りの子どもたちが食事の提供を受けられるようになった。

ライオンになって43年、現在64歳のアガワル会長は7月4日、第100回シカゴ国際大会で第101代国際会長として就任宣誓を行った。彼の任期中の取り組みが、夢のような理想は一切交えない、周到な計画に立脚したものとなることは明らかである。人々を助けたいという気持ちは心の中から生まれるが、奉仕を実現させるのは綿密で正確な計算である。

「140万人のライオンズがそれぞれ週に1時間奉仕すれば、延べ時間は7300万時間に達します」

とアガワル会長。故に彼は「2021年までに年間の奉仕受益者を2億人にする」という目標をライオンズが達成出来ると確信している。

奉仕の人生

アガワル会長はインド北西部にあるバタラという町に生まれた。極度の貧困層を抱える小さな町で、ロータリークラブ会員だった彼の父は、個人的な慈善活動にも取り組んでいた。助けが必要なのにそれを恥じて言い出せずにいた人々に、小売店主が食べ物を提供出来るようにしたのである。

「自分たちの暮らしが立つようにするだけではなく、人々に与えることも等しく大切であると、私は父から学びました」

とアガワル会長は語る。十代の頃には、ライオンズのレオクラブのような、ロータリークラブが青少年のために設けているローターアクトクラブに入会して初代会長となり、また重要な校内グループのリーダーにも選出された。責任感が強く、自信に満ち、他者を尊重する彼の性格は、まさにリーダーにうってつけだった。

21歳の時、地元にバタラ ライオンズクラブが結成され、チャーター・メンバーとなった彼は、その若さにもかかわらず副会長に選ばれた。

彼は最初から、階段を頂上まで登りつめたいという思いを抱いていた。それは個人的な上昇志向ではなく、より良い世界を作るためのまたとない機会だと思ったからだ。彼は次のように振り返る。

「ライオンズクラブに入会してからずっと、私は組織の頂点に立つことを夢見てきました。ライオンになっ

ナレシュ・アガワルの秘密

「『どんな問題にも解決策はある』という言葉を、彼は繰り返し発していました。決してくじけてはいけない、前向きに取り組み、解決策を見つけるべきだ、と言うのです」**ヴィズマ・ミッター**（バタラ ライオンズクラブ会員）

「彼には先見の明があり、その笑顔は人を引きつけます。全員を一つにまとめる求心力、そして非常に優れた指導力と奉仕の心を持った人物です。それにあのすばらしい笑顔もね」**ヘースティングス・エリ・チティ**（ザンビアの元地区ガバナーで旧友）

「彼はとても情に厚い人物で、皆を愛し、皆を助け、皆の意欲を高めてくれます。まるで誰もが彼の兄弟姉妹であるかのように」**ジャグディッシュ・グラティ**（インドのライオンズ）

「父から学んだ最も大切な教えの一つは、粘り強く、熱心に、ひたむきに努力を続けていれば、人生で成し遂げたいことは何でも成し遂げられる、ということです」**ロヒット・アガワル**（会長の息子）

「学校での思い出と言えば、どの先生も私のところにやってきて、『お父さんのスピーチは本当にすばらしいね』と言ってくれたことです。それを聞くと、誇らしい気持ちでいっぱいになりました。私の父はいつも檀上にいます。父が話しているのを見る度に、私もいつか父のようになりたいと思うのです」**スワティ・ムンジャル**（会長の娘）

「彼はいつも家族や友人に寄り添っています。いつでも手を貸すためにそばにいてくれます。……彼は歌うのが好きです。それほど上手くはないですよ！　でも、心から歌うのです」**ナヴィタ・アガワル**（会長の妻）

た時、世界をより良いものに変えられる大きな機会が目の前に開けていくのが、はっきりと見えたのです。ライオンズが力を合わせれば、町をより良い場所に変え、国をより良い場所に変え、そして世界中の仲間と共に、世界をより良い場所に変えることが出来るのです」

現在、彼が所属するバタラ・スマイル ライオンズクラブはとても活発なクラブで、白内障手術を始めとした眼科医療、移動診療車、女性が手に職を付けるためのミシンの講習会などを提供し続けてきた。100周年記念レガシー・プロジェクトとしては、バタラでは初となる遊具付きの公園を建設した。

アガワル会長が所属するバタラ・スマイル ライオンズクラブは、100周年記念レガシー・プロジェクトとして遊具のある公園を作った。そこでは毎日何百人もの子どもたちが遊んでいる

アガワル会長は74年にナヴィタ夫人と結婚し、3人の子どもと7人の孫がいる。ナヴィタ夫人は会長にとって常に大きな支えであり、「彼女は私の頼みの綱、最大の強みです」と彼は言う。

「『全ての男性の陰には賢い女性の存在がある』と言われますが、彼女は私の陰ではなく、いつもすぐ横にいてくれる存在です」

とても敬虔（けいけん）な人物であるアガワル会長は、ナヴィタ夫人に感謝していることがある。自宅にある小さな礼拝所で日々祈ることを、とても大切にしてくれるのだ。

「家にいる時には、礼拝を欠かさないようにしています。妻の言う通り、全能なる神を敬い祈ることは、私たちにとって必要なことなのです」

日々の出会いにおいても、アガワル会長は人々の中に聖なるものを見いだそうとする。それはあらゆる人の価値を認めることだ。彼は「ナマステ」というインドの伝統的なあいさつをする。

「『ナマステ』とは、人は皆同じである、ということです。あなたと私に違いはなく、あなたにも私にも同じように神が宿り、あなたの中にある神聖なるものに、私の中にある神聖なるものから敬礼します、という意味なのです」

国際会長に就任することで、彼は世界140万人のライオンたちの奉仕への熱意を生かすために大いに役立つことが出来る。

「ライオン一人ひとりがそれぞれの立場で役割を果たせば、私たちは大きな変化を生むことが出来ます。ただし全員が参加しなければなりません。それが『パワー・オブ・ウィ：団結の力』なのです。世界中の軍隊を合わせたよりも強いものが一つあります。『パワー・オブ・ウィ』は今、時代が迎えている理念であり、それは私たちが違いを生む方法なのです。

『パワー・オブ・ウィ』は私たちが持つ魔法です。私たちが自らをライオンズと名付けたのは、『パワー・オブ・アクション：行動の力』を重視したためです。メルビン・ジョーンズがこの名称を提案した時、盛んに議論が交わされました。ライオンとは極めて意志が固く、極めて明確な考えを持った動物です。私たちのロゴは、私たちが何者であるか、何を成し得るかを証明しています。百獣の王、ライオン。社会で最高の評価を得ることは、私たちにとって然るべきことなのです」

（ジェイ・コップ）

新国際理事抱負

次なる100年 LCIフォーワード推進の一員として

ライオンズクラブ誕生の地アメリカ・シカゴに世界中から大勢の人々が集い、喜びを分かち合う第100回国際大会が盛大に開催されました。そしてこの記念すべき大会におきまして国際理事に選出頂きましたことに衷心（ちゅうしん）より感謝申し上げます。

ライオンズクラブは1917年、シカゴの実業家メルビン・ジョーンズの「自らの才能を地域改善のために活用出来ないだろうか」という投げ掛けから創設されました。その後100年、ライオンズクラブ国際協会は4万7千余のクラブと142万人以上の会員が活躍する世界最大の奉仕団体に発展しました。この間に社会は、馬車が自動車に代わり、情報伝達手段もラジオ・新聞からソーシャルメディアやモバイルフォンへと変わりました。16年6月12日未明、アメリカ・フロリダ州で発生した死傷者100人を超える銃撃事件の被害者に対し、同日中に民間団体がクラウド・ファンディングによる義援金募集サイトを開設しました。開始11時間で100万ドル、2日後の14日には約9万件、400万ドルが集まりました。このように人々のチャリティーに対する意識・行動が変化し、IT革新による社会インフラが刻々と進化する中で、ライオンズクラブは100年を迎えたのであります。

私は、この大きな節目における国際理事就任に当たり、革新を続けるライオンズクラブを希求し、以下に注力することをお約束します。

- 国際協会、本部、国際理事会と各クラブ、ライオン間で、スピーディーに情報共有が可能な情報伝達チャンネルを整備する
- 創設者メルビン・ジョーンズの精神を胸に刻み、21世紀の奉仕の在り方を追求する

シカゴ大会では、次の100年に向けた戦略「LCIフォーワード」が発表されました。ライオンズが次の100年も成長を続け、これまで以上に多くの人々に奉仕していくために策定された5年間のロードマップです。そして、グローバル会員増強チーム（GMT）、グローバル指導力育成チーム（GLT）に加えてグローバル奉仕チーム（GST）を設置し、この3チームがグローバル・アクション・チームとして、奉仕活動の拡大、メンバーの質の向上、会員増強を推進することも決定しました。このロードマップとグローバル・アクション・チームによる活動を日本のライオンズクラブにおいて共有し実践していく道筋を立てることが、日本から選出された国際理事の大きな使命の一つと認識するところです。

私の所属する334-E地区では5年前に長野県との間に包括的協定を結び、行政との連携による新たな奉仕の形をもって地域づくりへの確かな貢献を実現し、ライオンズクラブの認知度を高めようという施策が実践されております。これは準地区レベルにおける実践の一例ですが、こうした地方からの新たな発想による奉仕の提言、地方の声を日本各地、世界各地に届けていくこともまた使命であると考えます。

ナレシュ・アガワル国際会長のテーマは「We Serve」です。次の100年に向けての原点回帰であります。このテーマと共に、友愛と相互理解の精神をもって世界の仲間との交流を積極的に図り、親睦を深めて参りたいと思います。

今後とも皆様の一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

■佐藤義雄（さとうよしお）

1942年生まれ。㈱長野セラミックス代表取締役社長。82年長野県・戸倉上山田ライオンズクラブチャーター・メンバー。90年度クラブ会長。04年度ゾーン・チェアパーソン。08年度334-E地区ガバナー。

国際理事活動報告

安井克之（2015～17年国際理事／北海道・旭川東）

奉仕事業委員会で奉仕の理想を模索

2015年6月、アメリカ・ハワイ州ホノルルで開催された第98回国際大会において、皆様の温かいご支援とご協力を頂き、国際理事に就任致しました。あれから早2年。日本ライオンズ及び東洋・東南アジアの代表として無事に任期を収めることが出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

就任初年度は、日本から第99代山田實紘国際会長が誕生した記念すべき年でした。会長テーマ「命の尊厳と和」の下、次世代を担う青少年の健全育成、障害者支援、子どもたちの飢餓対策、難民支援、環境保全と、取り組むべき課題が山積していました。最初の理事会から、先輩の西川義規理事にはさまざまな教えを頂きました。委員会の所属は、期待していた奉仕事業委員会となりました。

秋季国際理事会は、山田会長ゆかりの地であるハンガリー・ブダペストで開催。国際本部のジーナ・プレンキ奉仕事業部部長から、協会のサービス・アセスメントに関する説明を受けました。この第三者による奉仕事業の評価報告書を鑑みつつ、活動内容についての協議や取捨選択が行われることがよく理解出来ました。

アメリカ・ジョージア州サバンナで開催された春季理事会では、第99回福岡国際大会についての議案が長時間にわたり協議されました。

福岡大会が無事に終わると、その直後に開かれた2年目理事として最初の理事会で、第100代ボブ・コーリュー新国際会長の下、私は引き続き奉仕事業委員会に所属、副委員長を拝命しました。100周年記念テーマ「ニーズがあるところに、ライオンズがいる」の通り、ライオンズは助けを必要とするあらゆる人々に手を差し伸べます。特に青少年育成支援の重要性、未来は子どもたちのものであることを再認識しました。このテーマを実現するために、世界200カ国以上で奉仕活動に取り組む我々ライオンズは、これまで以上に次世代のライオンズ・リーダー育成に尽力すべきです。世界人口の半分以上を占める30歳未満の人々の活躍が、理想を実現させる鍵と考えます。

16年度第2回目の理事会は、コーリュー会長の故郷、アメリカ・テネシー州ナッシュビルで開催。街角の音楽家たちがギター、バンジョー、バイオリンなどを奏で、江利チエミも歌った「テネシーワルツ」を歌ってくれました。この理事会はライオンズ世界視力デーにも重なり、大変にぎやかなものになりました。

そしてアメリカ・イリノイ州シカゴで最後の国際理事会と、第100回国際大会に参加し、任期を終了致しました。

私たち日本ライオンズが目指すのは、小さくとも世界から尊敬される国となり、日本人らしい誠実さを持ち、誇り高い人道的社会奉仕に取り組むことだと思っております。一人ひとりが品位と誇りを持ち、ウィ・サーブの精神で奉仕活動にまい進しましょう。私も今後は一メンバーとして、頂いた貴重な経験を生かし、クラブや日本ライオンズのためにお役に立ちたいと思っています。この2年間、大変お世話になりました。感謝！

国際理事活動報告

佐藤宜之（2015～17年国際理事／大分）

山田国際会長、福岡国際大会、100周年に携わることが出来た奇跡

7月4日、第100回シカゴ国際大会終了と共に、2年間の国際理事としての任期を終えました。2年前、第98回ホノルル国際大会において国際理事に就任して以来、全国のライオンズ・メンバーから頂いた多くの激励の言葉が、皆様方のお役に立つことを使命とし最善を尽くすという私のモチベーションを維持してくれました。心から感謝申し上げます。

私の国際理事就任と同時に、日本人2人目の山田實紘国際会長が就任されました。新任理事オリエンテーションでは、本部での研修が終わった後夕食にご招待頂き、国際協会のしきたりやリーダーとしての在り方、プロトコール、国際理事としてのマナー等々をご指導頂きました。次世紀へ向けて世界のライオンズを改革していこうとする山田国際会長の情熱とエネルギーに圧倒され、日本からの国際会長の下で理事としての仕事が出来ることに、誇りと夢を持った1年目でした。

この年度の最後に山田国際会長が主宰した第99回国際大会は、私の所属する337複合地区がホスト地区となり福岡で開催されました。アメリカを除いて、国際会長が自国で国際大会を主宰されたことはこれまでに無いそうです。大会前、山田会長ご夫妻、ボブ・コーリュー第1副会長ご夫妻、国際本部大会部スタッフの福岡視察に同行し、大会開催のために微に入り細にわたり打ち合わせをして決定していく過程に驚きを覚えました。同時に福岡市を中心に組織されたホスト委員会の皆様が、国際協会の希望に沿うよう尽力されたことに敬意を表します。大会前の4月には熊本地震に見舞われ、大会開催を危ぶむいろいろな意見が出ましたが、みんなで一致団結して九州を元気にしようと、開催にこぎつけることが出来ました。

2年目理事の時は、大会委員会に所属しました。これまで国際大会開催地は5年先まで入札で決めていましたが、方針が改定され7年先まで選定出来るようになりました。そこでノミネートしている都市が資格適合しているかを委員会が調査し、3月のアテネの理事会において投票により22年～24年大会の開催地が決定されました。世界中で多くの都市が国際大会開催を熱望していることに、未来のライオンズへの希望を持ちました。

退任時の100周年記念のシカゴ国際大会では、新しい時代へ向けライオンズ国際協会がどのように変革してゆくのか議論を重ねてきた結果が発表され、いよいよ次の100年へ向けてスタートが切られた記念すべき大会となりました。

2年間の理事就任中、日本人の国際会長の下で仕事が出来、私の所属する337複合地区において福岡国際大会が開催され、100周年という記念すべきシカゴ国際大会に国際理事として参加出来たことは、稀有（けう）で奇跡的な経験でした。今後この経験を生かし、日本のライオンズのために微力ながら貢献したいと思います。

最後になりましたが、任期中公私にわたりご支援ご協力を賜わりました皆様に御礼申し上げまして、報告とさせて頂きます。

CLUB REPORT クラブ・リポート

331-C地区

北海道・ニセコ ライオンズクラブ

ふるさとの魅力に触れ、自然を守る心を育む親子清流下り

羊蹄山やニセコアンヌプリの山々に抱かれるニセコ町。元の名前は狩太町だったが、1964年に全国でも珍しいカタカナ町名になった。この年、一帯がニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定され、地元では駅名をニセコに変更しようと動いたが、当時の国鉄は地名でないのを理由に退けた。それならばと町名を変えたのだ。現在、人口5千人のニセコ町には年間170万人の観光客が訪れ、子育て世代の移住が増えている。その活況の源は変化を恐れない町民の気質にあると、ライオンズ会員でもある片山健也町長は言う。町は16年前に全国初の自治基本条例を策定し、情報公開と住民参加を推進。またスキーヤーを魅了するパウダースノーは、独自に設けた「ニセコ・ルール」で雪山を管理することで実現した。恵まれた自然と景観を生かし、環境に配慮した町作りが、国内外を問わず多くの人を引き付けている。

　そんなニセコの夏の楽しみの一つが、町を流れる尻別川のラフティングだ。尻別川は国土交通省の水質調査で水質が最も良好とされた15河川の一つ。その全国有数の清流で大自然を体感出来るラフティングだが、地元の子どもたちの中には体験したことのない子が多い。そこでニセコ ライオンズクラブ（長谷地利勝会長／37人）は、子どもたちに地域の自然の魅力を知り大切にする心を育もうと、町内在住の親子を対象に清流下り体験を企画した。この企画には今年度幹事のライオン下田伸一が営むアウトドア・ガイドの会社が特別価格を設けて協力。保護者と小学生はその3割引き、未就学児は無料にして、差額はクラブの負担とした。下田幹事は10年前からニセコに住んで子育てをする移住組。今回の企画には、幼い子を持つ親同士が交流する機会を作る狙いもあったと話す。クラブにとって初めての事業の上、ニセコ生まれのメンバーの多くが川下りは未経験だったことか

●投稿要領：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

※写真に100周年ロゴが付いた活動は100周年記念奉仕事業として国際協会に報告された事業

ら、昨年10月にはメンバーによる下見を実施。予定のルートを下って安全を確認した。
そして迎えた6月17日、集まった参加者は未就学児13人、小学生1人とその保護者。中には東京から移住した家族やオーストラリア人の親子もいて、ニセコならではの顔ぶれだ。参加者とメンバーは身支度を調え、注意事項を聞いた後、ボート4台に分乗して出発した。前日までの悪天候でこの日は水量がやや多く、水も濁り気味だったが、頭上には爽やかな青空が広がった。子どもたちはボートの後ろに乗ったガイドの指示でオールを操り、ボートを進めていく。
途中の浅瀬ではボートを停めて、冷たい川の水に足を浸した。下見時にはこの場所で遡上する鮭の姿が見られ、子どもたちにも魚の観察をしてもらう予定だったが、この日は水量が多いために中止。それでも子どもたちは水の冷たさに驚きながら、歓声と共に水しぶきを上げていた。
参加者の一人、オーストラリアから移住したクリスさんは、「ニセコは本当にいい所で大好き。子どもはニセコ生まれですが川下りは初めて。とても良い機会でした」と話していた。
（取材／河村智子　撮影／宮坂恵津子）

333-A地区

新潟県・越後西川ライオンズクラブ

元気な子どもに育ってほしいと願って始めた「節句の凧揚げ」

新潟県には「越後の凧合戦習俗」として県の無形民俗文化財に指定されている三つの凧合戦がある。新潟市南区白根・西白根の白根大凧合戦と、見附市今町・長岡市中之島の今町・中之島大凧合戦、三条市上須頃で行われる三条凧合戦がそれ。いずれも江戸時代から続く行事だが、白根は川の両岸で行うけんか凧、見附と長岡は川の堤防を踏み固める一策として行われたと伝えられ、いわれは地域によって異なる。ただ、これらの地域には全て信濃川水系の川が流れ、川に吹く風を利用し旧暦の端午の節句に当たる6月上旬に凧合戦を行うという共通点がある。

越後西川ライオンズクラブ（桑原淳一会長／34人）のアクティビティ「節句の凧揚げ」は、これらの凧合戦をヒントに始まった。同クラブの奉仕地域は新潟市西蒲区の一部で、2005年に新潟市に編入合併される前は西川町として新潟県西蒲原郡に属していた。旧町名は町の中心部を流れる西川に由来し、この川もまた信濃川の支流の一つとなっている。「節句の凧揚げ」では旧西川町の二つの保育園、曽根保育園とみずほ保育園を1年おきに交互に招待。毎年6月に西川沿いの西川ふれあい公園で実施している。

今年は曽根保育園の順番で、年長組と年中組の園児35人が参加した。凧は幼児でも容易に扱えるビニール製の洋凧（カイト）を使用。事前に保育園に材料を送り、カリキュラムの一環として、園児たちが凧に思い思いの絵を描けるようにしている。

当日はライオンズのデモンストレーションに続いて、会員や保育士、また行事を知って駆け付けた両親や祖父母のサポートを受けながら、子どもたちの凧揚げがスタート。凧を高く揚げることよりも、凧を引っ張って走り回ること自体が楽しいようで、園児たちは歓声を上げながら凧揚げに興じていた。

「『節句の凧揚げ』事業は15年ほど前に実施し、クラブで大凧も作っていました。その後、他の事業に切り替え中断していたのですが、最近はゲームなど室内で遊ぶお子さんが多いようなので、外遊びで元気に育ってほしいと、4年前に再開しました」

と、桑原会長は話す。

同クラブは「幼児には夢を！ お年寄りには安らぎを！」を合言葉に、子どもと高齢者への奉仕をメインにしている。地域の小・中学校の通学路を中心に行う見守りパトロールと、高齢者福祉施設を訪問し将棋を通して交流を深める二つの事業は、毎月欠かさず実施している。

また毎年12月下旬にはサンタクロースに扮して、旧町内の保育園と幼稚園5カ所を訪問。更にはYCE来日生の保育士体験なども行い、日頃から保育園と協力し合いながら、次代を担う子どもたちの成長を見守っている。

（取材／鈴木秀晃）

会員たちは絡んだ凧の糸を外したり、破損した凧の修繕に当たったりと大忙し

333-C地区

千葉県・市川南ライオンズクラブ

ふれあいの輪を広げる障がい者の美術展「ハート♡アート展」

6月5日から11日まで、高級ブランド店が並ぶ東京・銀座並木通りのギャラリー杉野で、障がいを持つ人の美術展「第2回ハート♡アート展in銀座」が開かれた。市川南ライオンズクラブ（長谷川美左男会長／16人）の事業で、市川ライオンズクラブが協賛。

市川南ライオンズクラブは障がい者と共に活動する事業をメインにしている。それらのアクティビティを通じて交流を重ねる中、関係者から、運動系のイベントはあるが、文化系の発表の場が少ないことを聞いた。そこで結成10周年を迎えた昨年度、記念事業として障がいを持つ人たちの作品展を開くことにした。

企画を進める中で、知的、精神、身体、視覚、聴覚など、障がいの枠を超え、全ての人が参加出来るものにすることを決定。市内の関連施設や学校に呼び掛けたところ、昨年は181点の応募があり、全作品を市川市文化会館で3日間にわたり展示した。また、その中から優れた作品を選び銀座のギャラリーに展示することで、出品者にはプレミアム感を持たせ、画廊を訪れた人たちには障がいを持つ人たちの多才な力や可能性を再認識してもらうきっかけとした。

「ハート♡アート展」に参加した23の団体・施設の中には、山下清が入園していた八幡学園や、目の不自由な人が絵や文字を書いて、それを触り観賞することが出来る筆記用具「触図筆ペン（みつろう君）」を市川ライオンズクラブが寄贈し支援する千葉県立千葉盲学校も入っていた

2回目となった今年は、市川市を中心に23の施設・団体から126人が参加。一人2点までの応募が認められることから、170点の全作品が、5月18日から3日間、市川市文化会館に展示された。今回もその中から32点が選ばれ銀座にやって来たが、選考は画家や美術関係の専門家だけでなく、後援者やライオンズ会員など、さまざまな人たちが行った。そのため作品の優劣というよりも、一生懸命描いている様子が伝わってくる作品や、色遣いであるとか、大胆な構成であるとか、自由な心で描いた作品が選ばれ、「ハート♡アート展」にふさわしい美術展となっていた。

市川は放浪の画家・山下清ゆかりの地で、その才能を見いだし世に送り出したライオン式場隆三郎（東京ライオンズクラブ）は千葉県初の市川ライオンズクラブ産みの親でもある。清はライオン式場の紹介でライオンズのアクティビティにも協力、各地で作品展を開いていた。

（取材／鈴木秀晃）

336-C地区

広島太田川ライオンズクラブ

チャーター・ナイト40周年記念事業は盲導犬育成支援を主軸に

2017年2月に広島太田川ライオンズクラブ（田中敏也会長／29人）はチャーター・ナイト40周年を迎え、盲導犬育成事業を記念事業の柱とした。今回の趣旨は公益財団法人日本盲導犬協会島根あさひ訓練センターに300万円の寄付をし、盲導犬の育成に役立てて頂くこと。並行して育成の様子を2年間にわたって記録し、盲導犬のPR活動に役立てて頂けるようなDVDの製作も行った。小さな子犬の誕生シーンから始まるこのDVDは、パピーウォーカーの方に家庭内での成長やしつけ、そしてたくさんの愛情を受けて育っていく過程を撮影して頂いた映像と、訓練センターに戻り、厳しい訓練を経て成長していく映像を編集して作っている。

また、盲導犬のスキルアップや啓発を目的とした活動も数々行った。家族例会では、島根あさひ訓練センターを訪問。海洋こどもエコクラブの子どもたちも訓練センターに招待し、施設見学や盲導犬との歩行体験を行った。更に、PR犬と訓練士を例会へお招きして、目の不自由な方たちの現状や問題点、盲導犬の役割や訓練などのお話をして頂き、クラブ内で盲導犬に関してより一層の関心を抱くことが出来た。

2月18日にリーガロイヤルホテル広島で開催した記念式典では大勢の来賓の方、島根あさひ訓練センター、パピーウォーカー、盲導犬ユーザーの方々などにご参加頂いた。式典では完成したDVDの上映の他、盲導犬ユーザー様への盲導犬の貸与式、盲導犬の着用する盲導犬コートの寄贈式を行うなど非常に意義深い内容となった。

当クラブでは、今後もなお一層の盲導犬育成の支援活動を行っていく。（和田裕文）

331-B地区

北海道・朝日町ライオンズクラブ

オリンピック選手も練習する プラスチックジャンプ台周辺清掃

　朝日町ライオンズクラブは1982年に士別ライオンズクラブをスポンサーとして34人の会員で発足し、2012年4月にはたった12人だが、結成30周年記念式典及び祝賀会を盛大に開催した。現在は会員11人で活動している。人数は少ないが、「少数精鋭をモットーに背伸びをしない奉仕活動を」をスローガンにがんばっているクラブだ。

　5月10日、当クラブ・メンバーが早朝6時前から集合してプラスチックジャンプ台・三望台シャンツェ周辺の清掃活動を行った。この事業はクラブの地域貢献活動の一環として毎年5月の連休前に実施しているものだ。だが、今年は雪解けが遅かったため、10日に実施することになった。

　朝日町はプラスチックジャンプ台があることから、合宿の里としても力を入れており、オリンピック選手もたくさん合宿に訪れる。高梨沙羅選手、伊藤有希選手、葛西紀明選手、船木和喜選手、伊東大貴選手など、今まで何十人という有名選手がこのジャンプ台で練習を重ねてきた。たくさんの合宿選手が少しでも気持ち良く練習が出来るように、我がクラブは老体にむち打って清掃している。また、朝日スキーイベント実行委員会にもクラブで所属し、大会等の手伝いも積極的にしている。毎年7月には全日本スキー連盟A級全日本サマージャンプ大会が開かれるこのジャンプ台。また今年もシーズンが始まる。

　今後ますますスキー業界が盛り上がるように我々も引き続き協力していきたいと考えている。

（会長／渡邉正）

332-B地区

岩手県・藤沢岩手ライオンズクラブ

100周年を記念して ヤマボウシ2本を植樹

　藤沢岩手ライオンズクラブ（千葉安孝会長／49人）は、一関市立藤沢こども園との交流事業を以前から実施している。現在の一関市は2005年に七つの市町村が合併して出来た市だ。そのうちの一つ、旧藤沢町は長年にわたり町独自のスタイルで幼保連携型の保育を実施してきた。合併後の09年に、周辺の保育園、幼稚園と統合された一関市立藤沢こども園は13年4月に木をふんだんに使った新園舎に移転。当クラブでは地元のサッカークラブと共同で、プランターと花壇に花苗の植栽を実施し、園庭を彩った。

　その後も毎年、サッカークラブとの共同アクティビティとして園庭まわりの清掃、花壇整備と花苗植栽を続けている。奇麗になった園庭を園児たちも喜んでくれ、サッカークラブの小中学生も自分たちの後輩である園児へ贈り物が出来たことに誇りも持ってくれる、青少年の健全育成に寄与する活動になった。

　今年はライオンズクラブ100周年に当たり、記念樹を植栽することとした。

　4月13日、こども園でメンバーは園児たちと共にヤマボウシ2本の植樹作業を実施。小さなショベルを手にした園児が「おおきくなぁれ」と声掛けしながら作業している姿はほほ笑ましいものだった。ヤマボウシは花が咲き、葉も紅葉し、丸く赤い実もつけるなど、四季を通し変化を楽しみながら成長過程を感じられる木だ。地域の宝である子どもたちの成長を、我々と共に見守ってくれるだろう。今後もクラブではこうした活動を続けていく。

（福地恵理子）

330-B地区

4リジョン1ゾーン（神奈川県）

こども食堂支援 チャリティー・ゴルフ大会を実施

　2016年度の任期終了前にゾーンとして目新しい奉仕活動をしようと、330・B地区4リジョン1ゾーンの岩田稔ゾーン・チェアパーソンは川崎市川崎区桜本のこども食堂の支援を決定した。このこども食堂は社会福祉法人青丘社の運営で月2回開かれている。利用者は主に一人親家庭の子どもたち。就学前の子から小学生、アジア系のお子さんもいる。夕食の時間帯は父も母もまだ必死で働いており、帰ってくるのは8〜9時頃になる。特に父子家庭の場合は帰りが遅いという。アパートの一室で一人ぽつんとパンをかじる子どもたちに「一緒にごはんを食べようよ」と青丘社は呼び掛け、心休める場所として開かれ、70〜100人くらいが利用している。

　こども食堂と言うと、子どもの貧困に目が向きがちだが、ここは孤独な子どもたちに居場所を提供して人とのつながりを築き、生きる力を得られることを目的としている。ここに来るまで殻に閉じこもっていた子どもたちが、友人が増えて明るくなったという話も聞く。

　そこで5月12日、4リジョン1ゾーンはこども食堂支援チャリティー・ゴルフ大会を開催した。食堂を利用している障害児7人も応援に駆け付け、各ショートホールに募金箱を持って立ってくれた。ワンオンしなかった人はドネーションをそこに入れていく。今回の大会で集まった30万円はこども食堂に寄贈した。月2回のオープンが月3回に増えれば幸いである。これはゾーンの継続事業として、次期も開催する予定だ。（330複合地区LCIFコーディネーター／安達成功）

332-A地区

5リジョン（青森県）

美しい種差海岸に 海を望むベンチを寄贈

　332・A地区5リジョン（八戸市内9クラブ、三戸、五戸）11クラブは合同で、5月にライオンズクラブ国際協会創設100周年を記念するレガシー・プロジェクトとして、八戸市東部にある種差海岸に天然石の「白御影石」で作った幅150センチのベンチを設置した。天然石を使ったのは、レガシーとして、100年先まで変わらずにあることを期待してのことである。

　種差海岸は三陸復興国立公園内にあり、国の名勝に指定されている。また「日本の白砂青松100選」や「美しい日本の歩きたくなるみち500選」などにも選定されている。

　古くから、散歩する市民もいれば、釣りをする人、海岸で遊ぶ家族などもおり、八戸市民にとっては、まさに「市民の庭」と呼ぶにふさわしいほど、身近な存在である。また、豊かな自然環境が広がっているため、その景色をカメラに収める人たちも多く、訪れた観光客にも親しまれてきた公園だ。

　今回ベンチを設置したのは種差海岸の釜ノ口とマエデの間の遊歩道横だ。ベンチの側面には100周年記念のプレートを貼り付けてある。

　ライオンズの皆さんも種差海岸に来られたらぜひ遊歩道を歩き、このベンチを見つけたら座って休憩してほしい。

　遊歩道を歩いて、雄大な太平洋を望み、ちょっと一休み。

　太平洋に向かって置いてあるこのベンチ。座っていると、天気の良い日には太平洋の先にあるシカゴが見えるかもしれない。

（地区100周年記念副委員長／根城秀峰）

LIONS ON LOCATION

ヨーロッパ

芸術のパトロンとしてのライオンズ

ヨーロッパのライオンズは長きにわたり芸術を支援し守り促進する活動を続けてきた。

オーストリアのライオンズは24歳以下の若い音楽家のためにライオンズ・ミュージック・アワードを開催している。各クラブが音楽家のスポンサーとなって開かれるコンクールで、参加者は3人の審査員の前で課題曲1曲と自由曲2曲を演奏する。優勝者には千ドル（約12万円）が贈られ、複合地区の年次大会で演奏を披露する他、ヨーロッパ・フォーラムで催される各国からの代表が競う音楽コンクールに参加することが出来る。

ポーランドのクラクフでは、4クラブが合同で視覚障害者を対象とした歌のコンテストを開催している。このワールド・ソング・フェスティバルには、昨年、一昨年は世界13カ国から50人の歌手が参加した。地元のライオンズクラブがスポンサーとなり、参加者は自作あるいはこのフェスティバルのために書き下ろされた楽曲を歌う。ジャンルは自由。クラクフ滞在中には、映画『シンドラーのリスト』の舞台にもなった、ユダヤ人を労働者としてかくまったシンドラーの工場などの歴史的建造物の見学や、ピロシキ作りなどのイベントも用意されている。今年のコンテストは11月2～4日に開催される。

フランスのライオンズは1970年代に芸術・文化委員会を立ち上げた。文学、音楽、美術の支援活動を、アクティビティ促進や会員増強につなげようとするものだ。

「フランスでは文化芸術はコミュニケーションや観客動員に大変有効です。すばらしい作品に出会いたいという気持ちは、ライオンズの文化活動のモチベーションにもなり得ます。芸術とライオニズムは共に手を携えて発展することが出来るのです」

LIONS ON LOCATION

アメリカ／ミシシッピ州ジャクソン・メディカル ライオンズクラブ

子ども病院に響くベルの音

アメリカ・ミシシッピ州ジャクソンにあるバトソン子ども病院に、ベルの音が鳴り響いた。抗がん剤治療が終了した子が、大きなチャレンジをやり遂げたことを祝して鳴らした「リンギング・アウト・セレモニー」だ。治療で大きな区切りを迎えた時、子どもたちはこのベルを鳴らす。その音を聞いた他の患者や家族、そしてスタッフは、その子のニュースと併せて、喜びや希望を分かち合うことが出来るのだ。

入院中の子どもやその家族を精神面で支える専門家ティファニー・ケイがこのセレモニーを始めようと思った時、まずすべきことはベルの調達だった。ケイの同僚でレクリエーションを通じたセラピーを行っており、ジャクソン・メディカル ライオンズクラブの会員でもあるブルース・ビールは、その日のうちにクラブでこの話をした。すると、クラブがベルを買ってプレゼントすること、それが届くまでは自分たちのゴングとガベルを貸し出すことを満場一致で決定。ケイは翌日にはクラブのゴングを手にしたのだった。

バトソン子ども病院では年に40～50回、このセレモニーが行われる。抗がん剤治療の「修了証」をもらった子は小踊りして喜びいっぱいで3回ベルを鳴らす。

しかし残念ながら、時には短い人生の幕を閉じた子どもに代わり、親がベルを鳴らすこともある。そうした時にはたくさんの涙を流す、やはり特別なセレモニーになるのだ。

ジャクソン・メディカル ライオンズクラブは他にも子どもに付き添う親たちのための軽食を用意したり、病院への寄付金集めなども行っている。

LIONS ON LOCATION

スウェーデン

難民を守るライオンズ

アドゥブレザクは13歳。3年前までシリアのアレッポで幸せに暮らしていた。

今、トルコへ逃げてきた彼の一家が暮らすのは、電気も水道も無い雨漏りのする廃墟だ。わずかな食料を家族で分け合い、身を寄せ合って床に眠る。父の仕事は不定期なので、アドゥブレザクも早朝に床屋の掃除をして週に20リラ（約630円）を稼ぐ。仕事の後、10歳の妹エスマと一緒に、地元の学校の校庭に設置されたコンテナを使った学級へ行くのが楽しみだ。アドゥブレザクの夢はパイロットになって世界中を飛び回ること。エスマは母親と同じ教師になりたい。

コンテナ学級の周辺には30万人の難民が暮らし、900人の子どもたちが通っている。コンテナはスウェーデンのライオンズが寄贈したもので、他にも学用品、食料、毛布、テントなどが提供された。これから医療施設2棟も建設される。計540万ドル（6千万円以上）が提供された。

時に難民と市民の間に緊張が走ることがあるが、反して子どもたちはトルコ人もシリア人も自然に一緒になって遊んでいる。

「子どもたちは人道的な意味での成功例と言えるでしょう」と、スウェーデンのアケ・ナイキスト元地区ガバナーは話す。

この他にも、ノルウェーのライオンズはシリア国境近くのレバノン・バッカに支援センターを設立し、生活場所、教育、物資面で何十万人もの難民を支援している。更にはトルコ、レバノン、ギリシャ、オランダ、スロベニアなど世界各国のライオンズが、LCIF交付金事業として支援物資や屋外暖房器、トイレ、靴、緊急時持ち出し用キットなどを提供している。

LCIF交付金、総額10億ドルを突破

「診療キャンプが来ると聞いた時、私は妊娠中で、出産から2日後、夫と一緒にロバに乗って診療キャンプを訪ね、手術を受けました。おかげで私の目は完治し、無事に子育てをしています」（マリアムさん）

アフリカ大陸のチャド共和国に暮らすマリアムさんは、深刻な目の病気を抱えながら出産を間近に控えていた。こんな状態で、生まれてくる子どもの世話がちゃんと出来るだろうか、と不安に思っていたマリアムさん。しかし、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）のおかげで出産後まもなく目の治療を受けることが出来、その不安は一掃された。マリアムさんと同じような事例は、LCIFの50年の歴史の中で数多くある。

2017年はライオンズとLCIFにとって、大きな節目の年となる。1月、LCIF理事会によって承認された交付金の総額が10億ドル（約1120億円）を超えた。68年の創設以来、LCIFは1万3千件以上の交付金を拠出し、幾多の希望や癒やしを世界中の人々に与え続けてきた。

視力回復事業や、地震や山火事などで被災したコミュニティーの再建、飢えに苦しむ子どもの支援や、青少年の健全育成など、LCIFのサポート内容は多岐にわたる。一方、ライオンズはLCIFの資金援助を受けて、井戸の建設や仮設トイレを設置し、失明の拡大を防ぎ、障害のある人々が学校に通い、地域社会に参加するための支援を行ってきた。こうして10億ドルの交付金は、ライオンズの奉仕とLCIFの支援という形をもって世界中の人々に認知されていった。

LCIFの歴史において最初に承認された交付金は、洪水で壊滅的な被害を受けたアメリカ・サウスダコタ州ラピッドシティへの支援金だった。72年、100年に1度と言われた大型の台風が街を直撃し、記録的な大雨をもたらした。これにより200人以上の人が亡くなり、5千人以上が家を失った。LCIFは交付金5千ドルを拠出、地域再建を支え、ライオンズは誰よりも早く現場に駆け付け支援活動を開始した。

以来LCIFは、世界中で活動するライオンズに交付金を提供し続けている。特に、LCIFの中核となる四つの分野（視力保護、青少年育成、災害支援、人道援助活動）には、より一層の力を注いでいる。

ライオンズとLCIFは共に支え合いながら、偉大な事業を成し遂げてきたが、今もなお支援を待ち望む人々が大勢いる。新しい奉仕の時代を切り開くためには、更に新しい分野における世界的な取り組みが必要だ。糖尿病、環境問題、飢餓、小児がん、そして視力。世界が変わり続ける中で、我々も新たな課題に取り組み、地域や次の世代に最善の奉仕を提供しなくてはならない。ライオンズ会員一人ひとりの参加がLCIFのサポートにつながる。寄付でも、奉仕活動への参加でも、あなたの行動が世界を変える力になる。ライオンズの継続的な支援があってこそ、LCIFは人々の人生に希望を与えることが出来るのだ。

■国際理事
中村泰久
（埼玉県・大宮北）

シカゴ国際理事会及び新プログラムについて

メンバーの皆様には、ライオンズクラブ創設100周年において活発な奉仕を推進され、またシカゴ国際大会では日本から2123人（6月24日現在）の登録を始め多くの方にご参加頂きましたこと、心より感謝申し上げます。私は国際大会前後の国際理事会を含め、13泊15日シカゴに滞在致しました。この理事会で決議された日本に関係する事項についてご報告致します。

1．副地区ガバナー選挙手続きで指名委員会に提出するタイミングを標準版地区付則に明記

2．国際理事会方針書13章国際関係の国連に関する任命規定を、LCIフォーワードに沿った形に改訂

3．クラブ向上プロセス（CEP）をクラブ活性化計画（CQI）に変更

4．クラブ役員Eブックの全面改定

5．ガイディング・ライオンが受け持つ既存クラブの上限は2クラブ。新クラブの指導は一人のガイディング・ライオンが行う。地区ガバナーがクラブに派遣するガイディング・ライオンはクラブ会長経験者を条件とするが、ガイディング・ライオン研修の受講資格は定めない

6．標準版クラブ会則及び付則にグローバル・アクション・チーム（GAT）の責務と構造の説明を掲載

7．クラブLCIFコーディネーターは前クラブ会長が務めることを推奨

8．今年度に限り、クラブのグローバル奉仕チーム（GST）コーディネーターとLCIFコーディネーターは兼務可

理事会決議の詳細は、私から八複合地区議長連絡会議を通じてお伝えする他、国際協会太平洋アジア課から各複合地区に議事録が発信されます。

また新プログラムの概要は、

1．CQIの内容にはLCIフォーワードが取り入れられ、CEPより簡素化。日本語翻訳版は近日完成予定

2．クラブ役員Eブックは、会長・副会長向け、幹事向け、会計向けを一新、項目別にリンクが張られ、検索が簡単に

3．GAT（GMT／GLT／GST）日本はFWTも含む。今期から始まるGSTの役割は、100周年奉仕チャレンジ、レガシープロジェクトの推進。LCI奉仕フレームワーク（糖尿病・環境・飢餓・小児がん・視力）に沿った奉仕の拡大。地域における優先的ニーズを満たし、LCIFコーディネーターと協力しLCIF一般援助交付金の活用並びに資金獲得に取り組む。マーケティング委員長と協力し、地域社会への知名度を向上させる。レオを含め幅広い世代の参加者を引き寄せる奉仕プロジェクトを推進。GMT・GLT・FWTと協力し、指導力育成・会員増強・人道奉仕の拡大に取り組む

GATについては複合地区コーディネーターの皆様にお集まり頂いて日本における活動内容を決定し、各地区へご報告頂く予定です。私も日程さえ合えば複合地区、地区主催のセミナー等で説明致しますので遠慮なくご連絡ください。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

2017年人道主義大賞はリモート・エリア・メディカルに

2017年ライオンズ人道主義大賞は、アメリカ・テネシー州に本拠地を置く非営利組織リモート・エリア・メディカル（RAM）に贈られた。同賞はライオンズ会員以外に贈られる国際協会最高の賞。7月4日、シカゴ国際大会の最終日総会でボブ・コーリュー国際会長からRAMのスタン・ブロック代表にライオン像が手渡され、RAMには賞金25万ドルが授与される。

RAMは医師の診察を受ける余裕のない人たちのために、移動メディカル・センターを開設し、無償で良質な医療サービスを提供。1985年の創設以来、医療専門家らボランティアによる治療を受けた人々は70万人に上る。創設者でもあるブロック代表は南米ガイアナのワピシャナ族が住む地帯で大けがを負った際にそこに暮らす人々が医療を受けられない状況を知り、途上国の貧困地域や無医地区で医療活動を行うことを目的にRAMを設立した。しかしアメリカでも医療にアクセス出来ない人が多い状況から、現在は活動の6割以上がアメリカ国内で展開されている。ブロック代表は受賞スピーチの中で、インド・ラジャスタン州で実施したライオンズとの共同事業について語り、支援を必要とする人々に手を差し伸べようと訴えた。

シカゴ国際大会投票結果

シカゴ国際大会において、代議員による国際会長、国際第1、第2、第3副会長、国際理事（改選定数17人）の選挙と国際会則及び付則改正案の賛否投票が行われた。最終日総会（閉会式）で報告された今大会の代議員数は6652人だった。投票の結果は次の通り。

■2017・18年度国際会長：ナレシュ・アガワル（インド・デリー）

■2017・18年度国際第1副会長：グッドラン・ビョート・イングバドター（アイスランド・ガルザバイル）

■2017・18年度国際第2副会長：ジュンユル・チョイ（韓国・釜山）

■2017・18年度国際第3副会長：ヘインズ・H・タウンゼント（アメリカ・ジョージア州ダルトン）

■2017〜19年国際理事17人中、OSEAL地域の国際理事

佐藤義雄（日本／334複合地区）

K・ナガ（マレーシア／308複合地区）

ドゥフン・アン（韓国／356複合地区）

アリス・ラウ（中国／381地区）

■国際会則及び付則改正案

第1項：国際大会公式通達の規定を改め、公式通達をより早い時期に告示できるよう、国際大会開催60日前の交付を認める改正案【可決】

第2項：理事会構成に関して最近行われた国際会則改正に整合させるための改正案【可決】

第3項：同一地区に所属する国際理事と執行役員が同時に国際理事会のメンバーを務めることを認める改正案【可決】

第4項：国際役員候補者推薦の有効期間を、推薦に続く2回の国際大会から3回の国際大会に変更するとともに、国際理事候補者については、最初の推薦有効期間に選出されず、その後再度推薦を求める場合には、3年の期間を空けることを必要とし、また、国際副会長候補者については、連続2回まで認められる推薦有効期間に選出されず、その後再度推薦を求める場合には、3年の期間を空けることを必要とする改正案【可決】

国際理事候補者の選挙演説は、7月1日のパレード後に開かれたビジネス・セッションで行われた。OSEAL地域の候補者として抱負を語った佐藤義雄国際理事

2017・18年度国際理事会の構成

7月4日、シカゴ国際大会の閉会直後に2017・18年度最初の国際理事会が開かれ、各委員会の構成が発表された。日本の国際理事会構成員の所属委員会は次の通り。

日本の2年目理事、中村泰久国際理事（埼玉県・大宮北ライオンズクラブ）は監査委員会と地区及びクラブ行政委員会、1年目理事の佐藤義雄国際理事（長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ）は大会委員会に所属、山田實紘元国際会長（岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ）は国際理事会アポインティーとして、財務及び本部運営委員会の投票権の無い委員となった。

2017・18年度LCIF理事会の構成

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）理事会の構成員は22人で、2017・18年度はボブ・コーリュー前国際会長が理事長を、ジム・アービン元国際会長が副理事長を務める。日本からは国際会長の指名を受けた山田實紘前LCIF理事長と、会則地域V（東洋・東南アジア）の選任枠で栢森新治理事（愛知県・名古屋ウエストライオンズクラブ）が、会員一人当たりの寄付額が2番目に多い国からの選任枠で鈴木誓男理事（愛知県・豊田ルネッサンスライオンズクラブ）がLCIF理事会の構成員となった。

今年度から始動するグローバル・アクション・チーム

新たに設けられたグローバル・アクション・チーム（GST）を含めたグローバル・アクション・チーム（GAT）の各レベルのリーダーが決定した。国際レベル、東洋・東南アジア（OSEAL）地域レベル、日本レベルの構成は左の図表の通り。

■国際レベル

委員長：ウィンクン・タム元国際会長 GST担当	副委員長：マヘンドラ・アマラスリヤ元国際会長 GLT担当	ウェイン・マデン元国際会長 GMT担当

■OSEAL地域レベル

リーダー：GMT テーサップ・リー元国際会長	GLT タールー・チャン元国際理事	GST カジット・ハバナナンダ元国際会長
副リーダー：GMT 鈴木誓男元地区ガバナー	GLT ビョンドク・キム元国際理事	GST パトリック・チュウ元議長

■日本レベル

- GAT相談役
  栢森新治 (334)
- GATアンバサダー
  国際理事・LCIF理事
  前年度国際理事
- GAT (Global Action Team)
  統括リーダー：鈴木誓男 (334)
  副リーダー：不老安正 (337) GLT担当
  副リーダー：中村泰久 (330) GMT担当
- LCIF
  山田實紘元国際会長
  栢森新治 (334)
  鈴木誓男 (334)

- GMT日本エリアリーダー
  丸山正芳 (334)
  → 複合地区コーディネーター
- GLT日本エリアリーダー
  城阪勝喜 (335)
  → 複合地区コーディネーター
- FWT日本エリアリーダー
  長澤千鶴子 (333)
  - FWT東西エリアリーダー
    東：小川晶子 (330)
    西：高橋和子 (335)
  → 複合地区コーディネーター
- GST東西エリアリーダー
  東：角田裕一 (332)
  西：中村猛 (335)
  → 複合地区コーディネーター
- LCIF東西エリアリーダー
  東：大石誠 (330)
  西：榎本舜治 (334)
  → 複合地区コーディネーター

２０１７・18年度八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

6月12日、東京・八重洲の一般社団法人日本ライオンズで現・次期八複合地区ガバナー協議会議長引き継ぎ会議と次期八複合地区ガバナー協議会議長会議が開催された。

引き継ぎ会議では、次の10項目の引き継ぎが行われた。①２０１７年第56回ＯＳＥＡＬフォーラム（台南）参加協力②２０１９年第58回ＯＳＥＡＬフォーラム入札（広島）への継続支援③２０１７・２０１８年度アガワル国際会長公式訪問への参加協力④２０１７・２０１８年度ＬＣＩＦ理事長公式訪問への参加協力⑤２０１７・２０１８年度ＧＭＴ／ＧＬＴ／ＦＷＴ及び新ＧＳＴへの継続支援⑥ＭｙＬＣＩとサバンナの有効活用について⑦２０１７・２０１８ＡＬＬＩ（上級リーダーシップ研究会）の開催について⑧熊本地震義援金報告⑨２０１６年第99回福岡国際大会決算報告⑩２０２０年東京オリンピック・パラリンピックへの継続支援

続いて開かれた次期議長会議では、過去のローテーションによる世話人互選の経緯を確認した上、次年度議長連絡会議の世話人に山田正昭331複合地区議長（元331・Ｂ地区ガバナー）、副世話人に村中尊裕亀337複合地区議長（337・Ｅ地区ガバナー）及び田中明330複合地区議長（330・Ｃ地区ガバナー）が互選された。

日本ライオンズとスペシャルオリンピックス日本のパートナーシップ

6月16日、東京都千代田区有楽町の日本外国特派員協会において、一般社団法人日本ライオンズ（安田克樹理事長）と公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（有森裕子理事長）がパートナーシップ締結の合意書を取り交わし、続いて記者発表が行われた。

スペシャルオリンピックス（ＳＯ）は知的障害のある人たちのスポーツを通じた社会参加を支援する組織。１９６８年にアメリカの故ジョン・Ｆ・ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーによって設立され、現在は世界１７０の国と地域で４７０万人の知的障害のあるアスリートが活動に参加している。日本では94年11月、ＳＯ日本が発足。05年には第8回冬季世界大会が長野市で開催され、84の国と地域から１８２９人のアスリートが参加した。ライオンズクラブ国際協会とＳＯは01年にパートナーシップを結び、ＳＯのアスリートに視力検査や眼科ケアを提供するオープニングアイズにはＬＣＩＦが四大交付金を交付している。

今回のパートナーシップ提携により、日本ライオンズとＳＯ日本は共通の活動目標として知的障害のある人とない人が共に生きる共生社会の実現のために協力すると共に、両組織間の交流・相互理解及び協力関係を強化し日本全国で共同事業を推進する。主な共同事業は次の通り。

●ＳＯ日本は都道府県または国レベルにおける各種行事及び競技会で、全てのライオンズ及びレオにボランティアの機会を提供

●ＳＯ日本は２０１８年9月に愛知県で開催する夏季ナショナルゲームで、ライオンズ及びレオに大会ボランティアや事前広報事業トーチランの運営ボランティアの機会を提供

●日本ライオンズはＳＯ日本が行う行事におけるヘルシー・アスリート・プログラム等を通じ、特にライオンズの奉仕目標に沿う各分野のアスリートの健康増進に協力

●日本ライオンズとＳＯ日本は、より多くのラ

イオンズ及びレオが、知的障害のある人とない人が共にスポーツを楽しむユニファイド・スポーツに参加することで障害者への理解を深めることに貢献

●日本ライオンズは会員によるLCIFへの寄付を通して財政的貢献を行い、LCIFはSO国際本部との合意に基づきSO日本へ資金を提供

　これら提携の内容は、山田實紘LCIF理事長と有森裕子SO日本理事長、デビッド・エバンジェリスタSOヨーロッパ・ユーラシア代表が出席する記者発表で有森理事長から発表された。この記者発表の中で山田理事長はライオンズクラブの活動を説明し、今回の提携について次のように話した。

「SOは全都道府県に支部がありますが、知名度はまだ行き届いていません。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本は盛り上がっていますが、身体障害者に対する支援の関心が高まる一方で、知的障害者が取り残されているように感じます。この提携によって知的障害のある方たちに対する支援の啓発をしていきたいと考えています」

　記者発表では、今年3月に開かれた2017年SO冬季世界大会・オーストリアに出場しスノーシューイング800㍍で金メダルを獲得した松田雄大郎さんがスピーチし、「僕ががんばると、お父さん、お母さん、会社の人たち、周りのみんなが喜んでくれます。僕はそれがとてもうれしいです。だからがんばれます」と自らの体験を語った。

2016-17年度末世界の会員数

国際本部集計（2017年6月末現在）によると、2016-17年度の世界の会員数は期首から4万6306人の純増を遂げ、年度末で142万5795人となった。これはライオンズクラブの100年にわたる歴史の中で、年度末における最多会員数記録である（これまでは95年度末の142万5310人が最多）。まさに100周年を祝福するのにふさわしい試金石となった。

　会則地域別に見ると、インド・南アジア・アフリカ・中東（ISAAME）の3万3335人純増と、日本が所属する東洋・東南アジア（OSEAL）の1万1198人純増の貢献が大きい。国別ではインドの2万2894人純増（年度末会員数24万9674人）、中国の1万7922人純増（同4万8955人）が大幅な伸びを示した。

　男女別の世界の会員数は、男性が1万9684人純増の101万8064人、女性が2万6622人純増の40万7731人で、女性会員の割合は期首から1ポイント増加して28・6%となった。

2016-17年度末日本の会員数

2016-17年度の日本の会員数は入会9976人、退会1万3427人で3451人の純減となり、年度末（17年6月末現在）の会員数は11万6865人だった（国際本部集計）。年度内に日本で結成されたクラブは10クラブ、加えて復帰クラブが3クラブあった一方、解散したのは57クラブで、44クラブの純減。これらの変動は年度最後の月となる6月に集中し、6月だけで37クラブが解散し、約6千人が退会している。

　女性は1450人の純減の2万9093人で、女性会員の占める割合は24・9%と昨年度末からほぼ横ばい。2人目以降の家族会員は1950人純減の2万5922人で、これまで日本ライオンズの会員増を牽引してきた家族会員の減少が、大きく響いた形となった。

　大多数の地区が会員数を減らす中で、332-A、332-C、334-D、336-A、337-Eの5地区が純増を遂げた。中でも16年4月に熊本地震に見舞われた337-E地区の72人純増・1839人（4・1%増）は、群を抜く増加数、増加率で特筆に値する。

国際大会開催予定

第101回＝18年6月29日〜7月3日／アメリカ・ネバダ州ラスベガス

第102回＝19年7月5日〜9日／イタリア・ミラノ

第103回＝20年6月26日〜30日／シンガポール

第104回＝21年6月25日〜29日／カナダ・モントリオール

第105回＝22年7月1日〜5日／インド・ニューデリー

第106回＝23年7月7日〜11日／アメリカ・

マサチューセッツ州ボストン
第107回＝24年6月21日～25日／オーストラリア・メルボルン

会議録

■第11回ライオン誌日本語版委員会（6月9日）①ライオン誌日本語版の運営②6月号（5月19日見本／9万5500部発行）出来③7月号記事内容の確認④8月号及び9月号台割（案）⑤ライオン誌日本語版委員会⑥その他

■現・次期八複合地区ガバナー協議会議長引き継ぎ会議（6月12日）①本日の会議進行について②国際理事あいさつ③次年度への申し送り事項④年度内追加報告事項

■次期八複合地区ガバナー協議会議長会議（6月12日）①2017・18年度議長会世話人、副世話人の互選②新年度議長会・理事会の開催について③330複合地区オリンピック・パラリンピック支援特別委員会からのごあいさつ

■第5回複合地区国際大会委員長ウェブ連絡会議（6月16日）A第100回シカゴ国際大会①大会登録者数及び代議員予備登録者数（複合地区別）②インターナショナル・パレード③日本ライオンズ代議員会・朝食会　Bシカゴ国際大会全般の確認事項①大会最新日程及び最新情報②代議員資格証明と投票手順③国際協会割り当てホテルについて④ガバナー・エレクト・セミナー関係

新結成／復帰／解散／合併クラブ／クラブ名称変更

■新結成クラブ

福岡県・北九州ひまわり（多田弘美会長／20人）▼6月30日認証▼スポンサー／北九州第一

■復帰クラブ

5月＝京都王仁

■解散クラブ

6月＝東京三田／東京剣道／山梨県・三ツ峠／北海道・上川／北海道・女満別／青森あすなろ／岩手／岩手県・大迫早池峰／宮城県・仙台中央グリーン（合併）／栃木県・高根沢（合併）／千葉県・下総／茨城県・明野／岐阜県・美濃加茂あじさい／石川県・金沢森本／長野県・上高地／兵庫県・宝塚すみれ（合併）／兵庫県・尼崎近松／兵庫県・三田中央／兵庫県・芦屋クオリティ／大阪府・寝屋川／大阪扇町（合併）／大阪ファミリー／和歌山東／京都府・北桑田／京都華頂／京都セントラル／京都高野川／兵庫県・播磨／兵庫県・加古川シーサイド（合併）／兵庫県・豊岡こうのとり／高知県・大豊／愛媛県・久万／広島県・福山芦田／山口県・由宇／鹿児島県・笠利／沖縄県・那覇守礼（合併）／熊本創世紀

■合併クラブ（合併前のクラブ）

宮城県・仙台（仙台／仙台中央グリーン）
栃木県・宇都宮おおるり高根沢（宇都宮おおるり／高根沢）
大阪堂島（大阪堂島／大阪扇町）
兵庫県・宝塚グリーン（宝塚グリーン／宝塚すみれ）
兵庫県・加古川（加古川／加古川シーサイド）
沖縄県・首里キャッスル（那覇中央／那覇守礼）

■クラブ名称変更

茨城県・かすみがうら→霞ヶ浦
千葉県・柏悠遊シニア→柏悠遊

訃報

■元国際役員

錦戸光一郎（宮城県・仙台エコー）6月30日死去。88歳。80・81年度332複合地区ガバナー協議会議長、332・C地区ガバナー

■献眼者

5月＝後藤長義（宮崎県・川南）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

TOUCHSTONE STORIES　試金石ストーリー 17

WHERE THERE'S A NEED THERE'S A LION
SINCE 1917

ライオンズの100年の歴史と奉仕活動の足跡を伝え、その真価を物語るストーリーの数々を紹介します。
写真とテキストは100周年ウェブサイト（lions100.lionsclubs.org）でも閲覧出来ます。

ライオンズクエスト

ライオンズクエストは、若者が人生の試練を乗り越えられるようにする優れた方法を見つけたい、というあるティーンエイジャーの熱意に端を発するものでした。それは今日、世界中で最も広く活用されている社会性・情動学習プログラムの一つとなっています。

1975年、オハイオ州に住む19歳のリック・リトルは、自動車事故で背中に重症を負いました。6カ月間動けずにいた彼は、若者が大人として成功するために必要なライフスキルと強い人格を養うために学校がほとんど何もしてくれないのはなぜだろう?と考えました。傷が癒えると、答えを探して十代の青少年、教師や思春期の発達の専門家に話を聞きました。そして77年、ケロッグ財団から13万ドルの交付金を受けて、クエスト・インターナショナルを設立します。リトルは価値観に基づくカリキュラムと薬物使用防止プログラムの設計・開発を目指し、文化や教育制度の違いを超えて適用しやすい教育手段の構築に取り掛かりました。

ライオンズが関わるようになったのは84年、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）がクエスト・インターナショナルに初めて交付金を提供した時のことで、この資金は追加プログラムの開発と拡大に使われました。国際協会はその年のうちにクエスト・インターナショナルとパートナーシップを結び、中学生を対象とした「ライオンズクエスト思春期への対応」と呼ばれる大規模な薬物防止イニシアチブを開始します。ライオンズクラブは地元の学校組織と提携し、地域レベルでこのプログラムを実施しました。その後、ライオンズはこのプログラムを幼稚園から高校までの全学年の生徒に対応するものにし、その内容は前向きな行動を促し学力を向上させるものとして、独立した調査機関から高く評価されています。

ライオンズクエスト・プログラムを取り入れた中学校の授業風景

02年にはLCIFがカリキュラム教材の正式な所有権を獲得し、ライオンズクエストは間もなく世界中でライオンズの主要な青少年育成プログラムとなりました。世界中のライオンズクラブは、教員の研修を企画し、保護者の会議を共催し、青少年に話し掛け、生徒と共同で奉仕事業を行うことで、ライオンズクエストの成功と拡大に重要な役割を果たしてきました。ライオンズクエストは学業を超えて、生徒たちに責任ある決定を下し、目標を定め、自らの行動に責任を持ち、健全な関係を築き、悪い誘いにうまく対処し、地域社会奉仕に取り組む方法を教えます。

例えばトルコでは、公立・私立学校の教員たちがライオンズクエストをいじめに立ち向かうために利用しています。イスタンブールのボスポラス大学で幼児教育を研究しているマイン・グベン教授は、この取り組みの評価を行っています。

彼は次のように述べています。

「私がこのプログラムに関わるようになったのは、研修に非常に感銘を受けたからです。課題は世界中どこでも同じです。ライオンズクエストを役立てて、私たちは何とか教室の平和を保つことが出来ています」

読者から——6月号

■健康な人生を考える

私の住む香川県と言えば「うどん県」と呼ばれるほど、うどんの消費量が多い県で、全国平均の2倍強です。県民1人当たり、2日に1食はうどんを食べている計算になります。

一方、糖尿病受療率は2011年調査で全国ワースト2位でした。もちろん「うどん」だけが原因ではありませんが、大きな要素であることは間違いないようです。

「特集：糖尿病の実態」にあるように、食生活や運動不足の生活習慣を改めて、健康な人生を送りたいものです。

香川県・坂出ライオンズクラブ●柴田正比古

■通達に関しての解説を

「特集：糖尿病の実態」は、まさに身につまされる内容で、健康の大切さを、改めて感じさせてくれる記事でした。

ライオンズが献血・献眼・献腎同様に重要なアクティビティと位置付けるのは当然の成り行きであり、その予防と患者への支援に力を注ぐことは大切なことだと思います。この記事に載っている先進事例を参考に、奉仕の輪が広がっていってほしいです。

一方、「国際理事会決議事項要約」などの公式通達のような記事について、いつも思うことは、原文（和訳）をそのまま載せただけの通達用記事欄だと理解が難しいということです。解説がないと、目を通しても、記憶も理解もしないままで済ませてしまっています。これら通達の多くは日常の運営、活動にはあまり影響がない事項が多いので問題がないのですが、クラブの運営、活動に密着した通達事項については、解説がほしいと思いました。新設、変更する理由、背景を解説して、理解しやすいような記事欄にして頂ければと思います。

広島ライオンズクラブ●久保行夫

■30年前の投稿の再掲に感謝

この度は6月号に30年前の拙文「糖尿病克服記」を再掲してくださり、誠にありがたく、感謝と共に感激致しております。糖尿病と仲良くしたおかげで、この8月に満95歳になりますが、最近は視力と聴力が極端に衰えました。クラブの役に立たない一人の隠居ですので、退会を考えて息子に相談したところ、反対されました。退会は老化を早めるからだと言うのです。「老いては子に従え」と言われますので、死ぬまで退会しない覚悟を致しました。

30年ほど前はライオン誌へ投稿することを楽しみにしておりまして、今まで16回ほど掲載して頂いたと思います。世界中のライオンズ関係の方々の発展を祈って、お礼とさせて頂きます。

山形霞城ライオンズクラブ●斎藤幸一

読者プレゼント

■100周年記念マグカップを読者10人に

ライオンズクラブ創設100周年を記念して作られたグッズの一つ、100周年ロゴ入り陶製マグカップを10人の読者にプレゼントします。アメリカのダイナーで定番となっているデザインです。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「100周年マグカップ」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は8月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　一般社団法人 日本ライオンズ・ライオン誌
＊オンライン応募は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=c.／第2問=b.／第3問=a.／第4問=c.／第5問=b.

●1972年7月号

「ライオンと呼ばるる人秘話」

槌橋秀一（兵庫県・神戸ライオンズクラブ）

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「ライオンと呼ばるる人」が、いつライオンズ必携に収録され、正式に取り上げられたのか、よく知らないが、今や日本のライオンズにとって、それ無しでは済まされないほどの重要な存在となっていることは、疑う余地のない事実のようである。

文章の調子から、恐らく英文を翻訳したものだろうが、その格調の高さは際立っており、こんな立派な日本語を操る人はどんな人だろうか、と長い間感嘆し、また疑問にも思っていた。ある日、ふと葛野さんに「ライオンと呼ばるる人は誰が翻訳したか、ご存じありませんか」と尋ねてみた。我が神戸ライオンズクラブの初代幹事で、10年にわたり国際協会特別代表、日本事務所長を務めて、日本ライオンズの成長の縁の下の力持ちとなった、あの人葛野作太郎である。

すると、「あれは私が翻訳して、神戸クラブのチャーター・ナイトのプログラムに載せたんですよ」と言う。葛野の答えに驚いたのは、他ならぬ私である。1953年4月といえば、既に19年も前のことである。

早速、古いファイルを引っぱり出して探し回り、そのプログラムを見つけ出すことが出来た。葛野の言った通りに「ライオンと呼ばるる人」が原文と対照して記載されているのを見た時の私の気持ちは、うれしいような照れくさいような感じだった。

「ライオンズ・ヒム」「きけきけライオンズ・ローア」「また会う日まで」の訳詩者が葛野作太郎であることは知る人も多いだろうが「ライオンと呼ばるる人」の翻訳までもが葛野の手のものであると知って、今更ながら彼のライオンズにおける足跡の大きさを思うのである。

ところで、この原文は誰が作ったのか、何に記載されていたのか、葛野も忘れてしまったという。302W複合地区事務局の土屋さんが国際協会のジム塩崎の所へ問い合わせてくれたが、「恐らく、神戸ライオンズクラブのチャーター・ナイトの直前に行われたアメリカかカナダのクラブのチャーター・ナイトのプログラムに記載されていたのが、参考のために神戸に送られて、たまたま葛野の目に留まったに違いない。今となっては国際協会でも調べる手だてがない」という返事が帰ってきたそうである。

翻訳者が19年経ってやっと舞台に登場してきたように、また何年か経って、ふとしたことで原作者に光が当たることが起こり得るかもしれないが、今のところ「読み人知らず」と言う他はない。

初めに書いたように、この「ライオンと呼ばるる人」、あまりに格調が高いので、引用に引用を重ねても、葛野の書き下したものと現在のものと、ただ1カ所を除いて一言一句変わっていない。葛野の書き下しでは、一番最後の文章が「彼こそライオンと呼ばるる人なれ」となっていたが、現行のものはご存じの通り「彼こそライオンと呼ばるる人」で終わっている。これがただ一つの変わっている点である。口語調であれば「こそ……なれ」は重すぎる感じで、思いきって最後の「なれ」を省いてしまったのは一つの見識であるが、さて、それをいつ、誰が思いきって実行したのか。それは誰も知らない。

■本欄で紹介した記事を含むライオン誌アーカイブが、www.thelion-mag.jpでご覧頂けます

ライオンズ誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■国際大会の開催地

創設100周年を記念する国際大会の舞台となったのは、ライオンズクラブ発祥の地アメリカ・イリノイ州シカゴ。半世紀前の第50回国際大会もシカゴで開かれており、今回で11回目の開催となった。

国際大会の開催地は、地元複合地区の推薦を受けた都市の入札で選定される。国際理事会方針書では、基準を満たした客室5千室提供の確約や、大会総会などのために座席数1万2千以上の会場の9日間使用、大会サービス・センターを開設するために約1万6千平方メートルの会場の10日間使用などを入札条件としている。最終的な開催地の決定は、毎年春の国際理事会における投票によってなされる。来年、第101回国際大会の開催地に決まっているのは、アメリカ・ネバダ州ラスベガス。71年の第54回国際大会に続いて2回目の開催となる。

この日・この月

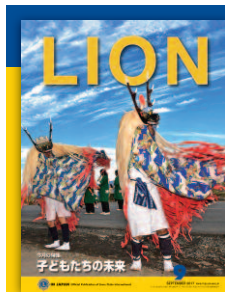
8月15日は「終戦の日」。1945(昭和20)年8月15日、終戦の詔書の玉音放送が行われ、ポツダム宣言の受諾による日本の降伏が国民に伝えられた。終戦時の内閣書記官長で詔書の起草者の一人として知られる迫水久常は、経済企画庁長官や郵政大臣を務めた政治家であり、日本ライオンズ草創期に大きな足跡を残したライオンだ。迫水は58年に東京ライオンズクラブに入会し、64・65年度302複合地区議長及び302E・1地区ガバナー、70～72年国際理事を歴任。また、ライオンズが中心となって66年6月に設立された日本盲導犬協会の初代理事長を務めた他、日本で初の開催となった69年東京国際大会の成功に尽力した。

1968年3月、日本盲導犬協会の第1期卒業生となった盲導犬8頭の卒業式であいさつする迫水理事長

『ライオン誌』61年10月号の「ライオンズ職場訪問」は、クラブ会長を務めていた迫水郵政大臣の執務室を訪ね、多忙な日々や大臣の職務、日本経済などについて話を聞いた。その中で迫水は終戦時の御前会議に触れ、「……陛下は自分はどうなっても構わないがこの戦争を止めてでもらって一人でも多くの人に生き残ってもらいたいと言われた。……」と回想している。

9月号予告

特集 子どもたちの未来

日本の子どもの貧困率は16.3%で、300万人以上の子どもが貧困状態にあると考えられているが、そうした実態は外からでは見えにくい。そこで、フードバンクの運営にかかわるライオンズ会員や、こども食堂を開いて子育て支援を行うクラブの取り組みから、子どもたちを取り巻く社会の実態を探る。

クイズde例会

〈第1問〉今年のシカゴ国際大会は第何回目の大会？

a. 第50回　b. 第80回
c. 第100回

〈第2問〉シカゴ国際大会第1回総会（開会式）の基調講演者は？

a. ドナルド・トランプ米大統領
b. アル・ゴア元米副大統領
c. ビル・クリントン元米大統領

〈第3問〉2017-18年度ナレシュ・アガワル国際会長の出身国は？

a. インド
b. スリランカ
c. パキスタン

〈第3問〉2017-18年度ヘインズ・H・タウンゼント国際第3副会長の出身国は？

a. レバノン　b. ブラジル
c. アメリカ

〈第4問〉2017-18年度のテーマは？

a. 次なる山を目指して
b. ウィ・サーブ
c. ニーズのあるところに、ライオンズがいる

★回答は54ページ下

編集室

台風と珊瑚

ライオン誌
日本語版委員
◉
小柴登司
（沖縄県・浦添ウェスト）

私の暮らす沖縄の久米島では既に台風シーズンに突入しています。例年、台風はシーズン中に数回程度、直撃または接近するのですが、昨年は接近数が異常に少なく、直撃は10月3日の第18号のみでした。とはいえ、勢力が弱まる要因の無い南国の離島では風速は秒速50㍍を超え、電柱が倒れて我が家でも24時間以上停電が続きました。

そんな甚大な被害をもたらす台風ですが、一方でメリットもあります。一つは海水温の調整です。沖縄では夏場、表層の海水温が30度を超えます、沖縄の海を彩る珊瑚は高水温に弱く30度超の水温が続くと白化して死滅します。この海水を台風による暴風とうねりがかき混ぜることにより、珊瑚の生育可能な水温まで低下させるのです。昨年は台風の接近が少なかったため表層水温の高い状態が続き、水深の浅いエリアにある珊瑚はかなりの量が白化してしまいました。幸い珊瑚は復活の兆しを見せていますが、珊瑚のダメージはそれ自体にとどまらず、珊瑚礁の生態系に大きな影響をもたらします。地球温暖化による高水温のみが珊瑚白化の原因ではないようですが、沖縄では珊瑚が環境の変化を知らせてくれる指標の一つとなっているのです。

冬になれば雪が降り、梅雨には雨が降り、夏には台風が来る。そんな当たり前だと思っていた季節の移ろいが我々の生活の基盤となっています。地球温暖化と異常気象の関係性が科学的に解明されているのかは不明ですが、私たちが生活しているこの恵まれた環境を次世代に引き継いでいくために何をすべきなのか。まずは、身近な環境変化を感じ取っていくことの重要性を感じています。

創設100周年を機に打ち出された戦略計画、LCIフォーワードのグローバル奉仕の5分野の一つに環境が取り上げられています。環境問題というと漠然としたつかみどころのないテーマと感じられるかもしれませんが、私たちの身近にある変化を見つめることがスタートになるのではないでしょうか。我々に何が出来るのか、ヒントはそんなところに隠されているような気がします。

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

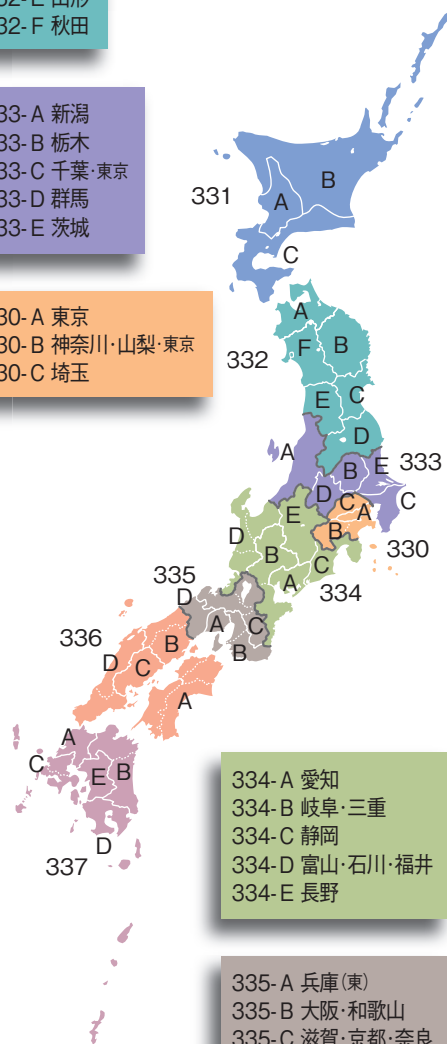
ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　中村 泰久
国際理事　佐藤 義雄
委員長　石井 博之（334複合地区）
編集長　佐藤 義則（332複合地区）
委員　久津間康允（330複合地区）
委員　佐々木忠康（331複合地区）
委員　渡邉信也（333複合地区）
委員　中村 房雄（335複合地区）
委員　矢野敏明（336複合地区）
委員　小柴登司（337複合地区）

一般社団法人日本ライオンズ
ライオン誌日本語版委員会
〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL.(03)6674-8777 FAX.(03)6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本ライオンズクラブ分布図

2017.6.30　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数 男性	女性（割合）	家族会員数 子会員	増減	男性	女性
330-A	199	6,181	−222	4,477	1,704（27.6）	1,743	−103	572	1,171
330-B	164	4,415	−84	3,708	707（16.0）	453	−32	123	330
330-C	84	2,325	−26	1,880	445（19.1）	380	2	127	253
330 計	447	12,921	−332	10,065	2,856（22.1）	2,576	−133	822	1,754
331-A	72	2,705	−29	2,172	533（19.7）	461	2	90	371
331-B	83	2,650	−92	2,114	536（20.2）	471	−10	65	406
331-C	51	1,852	−70	1,531	321（17.3）	298	−34	77	221
331 計	206	7,207	−191	5,817	1,390（19.3）	1,230	−42	232	998
332-A	62	2,134	11	1,636	498（23.3）	399	21	87	312
332-B	51	2,328	−88	1,531	797（34.2）	836	−17	150	686
332-C	66	1,852	−37	1,297	555（30.0）	543	18	114	429
332-D	71	2,493	3	1,912	581（23.3）	539	12	114	425
332-E	56	2,029	−5	1,585	444（21.9）	368	−17	59	309
332-F	44	1,345	−55	967	378（28.1）	318	−9	54	264
332 計	350	12,181	−171	8,928	3,253（26.7）	3,003	8	578	2,425
333-A	73	3,152	−76	2,478	674（21.4）	617	−25	155	462
333-B	47	1,703	−39	1,077	626（36.8）	606	21	158	448
333-C	133	3,334	−205	2,581	753（22.6）	415	−168	115	300
333-D	54	2,333	−113	1,701	632（27.1）	641	−85	148	493
333-E	81	4,471	−350	3,017	1,454（32.5）	1,594	−391	438	1,156
333 計	388	14,993	−783	10,854	4,139（27.6）	3,873	−648	1,014	2,859
334-A	121	6,596	−291	4,371	2,225（33.7）	2,239	−182	453	1,786
334-B	78	4,529	−241	3,148	1,381（30.5）	1,510	−241	299	1,211
334-C	80	3,383	−98	2,822	561（16.6）	468	−104	58	410
334-D	97	5,836	31	3,881	1,955（33.5）	2,094	25	387	1,707
334-E	51	2,624	−62	1,853	771（29.4）	783	−53	204	579
334 計	427	22,968	−661	16,075	6,893（30.0）	7,094	−555	1,401	5,693
335-A	77	2,055	−86	1,619	436（21.2）	214	−8	35	179
335-B	165	6,357	−260	4,670	1,687（26.5）	1,432	−91	309	1,123
335-C	112	3,952	−97	3,298	654（16.5）	389	−22	87	302
335-D	61	1,953	−90	1,537	416（21.3）	303	−30	71	232
335 計	415	14,317	−533	11,124	3,193（22.3）	2,338	−151	502	1,836
336-A	145	6,171	66	4,665	1,506（24.4）	1,125	24	219	906
336-B	94	3,143	−249	2,574	569（18.1）	379	−119	68	311
336-C	95	3,376	−66	2,832	544（16.1）	384	36	72	312
336-D	91	3,200	−191	2,719	481（15.0）	306	−118	36	270
336 計	425	15,890	−440	12,790	3,100（19.5）	2,194	−177	395	1,799
337-A	117	5,337	−150	3,851	1,486（27.8）	1,124	−115	224	900
337-B	69	2,882	−11	2,095	787（27.3）	758	−4	144	614
337-C	81	4,020	−213	2,707	1,313（32.7）	1,324	−209	379	945
337-D	74	2,308	−43	1,979	329（14.3）	173	−15	36	137
337-E	57	1,839	72	1,474	365（19.8）	278	56	75	203
337 計	398	16,386	−345	12,106	4,280（26.1）	3,657	−287	858	2,799
総計	3,056	116,863	−3,456	87,759	29,104（24.9）	25,965	−1,985	5,802	20,163

世界のライオンズ

2017.6.30　国際協会集計

国または領域………212　クラブ数 ………47,390

会員数 ……1,425,795　会員数増減……46,306

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書

ライオンズ新書01 **ライオンズ力を高める** 第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。
新書判 224ページ
1部500円･送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 **LCIF早分かり** 第2版第1刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。
新書判 184ページ
1部400円･送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオンズスクール･シリーズ

初級編･**ライオンズクラブ入門** 第3版第6刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ
1部400円･送料実費

上級編･**リーダーシップを養う** 第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ
1部400円･送料実費

●大口注文割引(ライオンズスクール･シリーズ)：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません)。※ただし、急ぎの場合は実費請求
■お申し込みはEメール(office@thelion.jp)またはファクス(0366748781)でお願いします

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……………… 部
●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……………… 部
●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 ……………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 ……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ライオン誌8月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2017年(平成29年)7月20日発行　毎月1回20日発行　第60巻第2号
発行／一般社団法人日本ライオンズ　ライオン誌日本語版委員会　〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　Tel 03-6674-8777
印刷／凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lcif.org/JA/index.php